

長年の貢献お疲れ様！

敬老の日、各地区で祝賀会温かく

長年の社会貢献、地域貢献、お疲れ様でした。「敬老の日」の九月十五日を中心に、港区でも各地域で敬老の催しが行なわれ、百八歳の女性一人（市岡、ザイオン入所）を筆頭に、七十歳以上の一万三四〇七人（港区地域振興会各連合女性部調べ）が長寿を祝福されました。

地域挙げてもてなし、参加高齢者の誠実な姿勢も

●三先では七十歳以上が二六〇人

このうち十五日（火祝）午後一時から三先小学校で行なわれた「三先地区敬老お祝い大会」（三先地域活動協議会主催）には三先一、二丁目から七十歳以上の約五百人が参加しました。

第一部・式典は港南中学校PTAの大橋さん

の司会で進行。まず三先地域活動協議会・森満もりみづ香副会長が「開会のことば」に立ち、その中で「三先地区の七十歳以上は今年、一一六〇名（男性四五八名、女性七〇二名）になりました」

と三先地区の現状を報告しました。

●「共助を育てよう」と地活協会長

続いて田村晴美・三先地域活動協議会会長が「お祝いのことば」に立ち、その中で「六十五歳以上が四人に一人を占める世の中になりました」

「お祝いのことばを述べる三先地域活動協議会・田村晴美会長」と、開会のことばを述べる三先地域活動協議会・森満香副会長



た。三先地活協では昨年、皆が安心して笑顔で暮らせる地域になるよう福祉活動計画を作成しましたが、今年はその実践の年。戦争を知らない世代が多数を占めるようになりましたが、その戦争を乗り越え、長年、日本と地域を支え、また浪花節、囲碁・将棋など様々な趣味をもって生きてこられた経験を、同好会を作るなどの形で生かしてほしい。それが生き生きと暮らせる地域社会の保障になるでしょう。また孤独死を出さないよう、新聞のたまり具合などに気をつけ、必要な通報するなど、地域に目を向け、足を運ぶことで、向い三軒両隣の助け合い、いわゆる互助を育てていきたいと思います。今、認知症が増え、日本国民の平均健康寿命は七十歳と

されている中、これを一日でも長く伸ばし、元気で長生きすることが大切です。目的、やりがい、生きがいを見つけて生活し、来年も元気な顔を見せて下さい」と呼びかけました。

このあと金婚夫婦 二十三組に港区社会福祉協議会から、長寿者（九十歳）二名に三先地域活動協議会から、高齢者（八十五歳）三十名に三先女性団体協議会から、それぞれ祝いの品が贈られ、各代表者が受け取りました。

●「心豊かな社会へ力を」と区長・副区長

このあと田端尚伸・港区長からの祝辞を港区役所協働まちづくり支援課・花立課長代理が代読。その中で区長は「平和な日本を築いてくれた人生に敬意と感謝を捧げます。急速に進む



→三先地域活動協議会から祝い品を贈られる長寿者（九十歳代表）と三先女性団体協議会から祝い品を贈られる高齢者（八十五歳代表）

「祝辞を述べる馬場泰子副区長」と、田端尚伸区長からの祝辞を代読する港区役所協働まちづくり支援課・花立課長代理



高齡社会に対応し切れない現実もありますが、その中で豊かな社会経験を生かして地域に関わることは、安心して生き生きと暮らせる地域づくりにつながると信じます。人の結びつきが強い港区の良さを生かし、心豊かな社会へ共に取り組んで参りましょうと呼びかけました。

また他の会場から駆けつけた馬場泰子副区長も「安心して生き生きと暮らせる心豊かな地域社会に向けて、ぜひ皆さんの力を生かして下さい」と呼びかけました。

●「元気に旅を続けて」と港南中学校長

港南中学校・東邦裕校長は祝辞の中で「織田信長は『人生五十年』と謡曲『敦盛』で謳いでしたが、今は五十歳でもまだ子供。年齢の

← 祝辞を述べる港南中学校・東邦裕校長^①と三先小学校・上山敏弘校長^②



七割が実質年齢といわれており、九十歳なら六十三歳、八十歳なら五十六歳。まだまだお元気に旅を続けて下さい。また『不易流行』^{ふいふりゅう}という言葉がありますが、皆さんの長年の経験と知恵と心を、子供たちのこれからの人生のためにぜひ生かして頂きたい」と語りかけました。

● 「経験を子供たちに」と三先小学校長

また三先小学校・上山敏弘校長は祝辞の中で、「三先小の児童数は四〇九。皆さんの時代と比べると随分少ないですが、一生懸命勉強し、運動しています。毎年、戦争体験を語るなどの形で協力頂き、感謝しています。これからも皆さんの知っておられること、経験されたことを伝えて頂きたい。そして三先から世界最高齢者が出ることを期待しています」と語りかけました。

● 「価値ある老後を」と三先社協会長

来賓紹介の後、三先社会福祉協議会・森忠三会長^③（三先シニアクラブ会長）が「お礼のことば」に立ち、「東日本大震災被災地の復興がなかなか進まないなど深刻な話題が多い中、錦織選手^{にしづ}の全米テニス準優勝は日本に勇気と希望を与えてくれました。私たちも人や社会との関わりの中で価値ある老後を過ごしたいと願っています。三先シニアクラブでは童謡、カラオケなど楽しい取り組みを続けていますので、ぜひ参加下さい」と呼びかけました。



このあと三先町会連合会・中西純子女性部長^{じゅんこ}が「閉会のことば」に立ち、「このあとの演芸を最後まで楽しんで下さい」との呼びかけで式典

→ お礼のことばを述べる三先社会福祉協議会・森忠三会長^③と、閉会のことばを述べる三先町会連合会女性部・中西純子部長^④

をしめくりました。

なお、参加者一人ひとりには三先地区の民生委員グループから冷茶や団扇^{うちわ}が配られ、俳やクルト本社からは「健康社会のために」愛飲を」とやクルト一本ずつが全員に供されました。

● 心づくしの出し物が次々

第一部・演芸は三先小学校PTAの女性三名（長谷川さん、宮繁さん、青木さん）の司会で進められ、地域の人たちの心づくしの出し物が次々と登場しました。

三先小学校生涯学習ルームコーラスグループ



→ 美しい歌声を響かせた三先小学校生涯学習ルームコーラスグループ^⑤と、リズムミカルな動きで魅せた三先女性会の『秋田音頭』^⑥

「三先地域ネットワーク委員会のリードで行われた『ひまわり体操』(上)と、鈴なりの子供たちが乱舞した三先こども会の『妖怪体操第一』



は滑らかな発声と楽しい振り付けで『千の風になつて』『川の流れるように』『お祭りのマンボ』を合唱。三先女性会はリズムカルな動きで『秋田音頭』を披露。三先ネットワーク委員会は「無理しないように」との配慮で丁寧な説明で、『三百六十五歩のマーチ』に乗せて『ひまわり体操』をリード。三先こども会は舞台の上と下へ鈴なりの賑やかさで元氣一杯に『妖怪体操第一(妖怪ウォッチ)』を乱舞。三先女性会は会場に分け入って澣刺(はつし)と『河内音頭』をリード。

最後に港南中学校吹奏楽部が村上研一教諭

の指揮で『夜校お七』『きやりーばみゅばみゅ』『レクシヨン』『美空ひばりメドレー』『りんご

追分』『愛燦々』『お祭りマンボ』『川の流れるように』を披露。時に哀感を込め、時に力強く、時に「ミカル」と自在な曲想表現による高水準な演奏に、期せずして「アンコール」。再び楽器を手にした生徒たちは「アナと雪の女王より「レット・イット・ゴー」を演奏。ラストの壮大な盛り上がりで万雷の拍手が響き渡りました。

全演目終了後、三先地域活動協議会・山本高雄総務が「閉会のことば」に立ち、「最後を盛



→澣刺とした動きで『河内音頭』をリードする三先女性会(上)と、数々の懐かしい曲で高齢者を元氣づけた港南中学校吹奏楽部の演奏(下)

「閉会のことばを述べる三先地域活動協議会・山本高雄総務(上)と感謝の拍手を送る参加者(下)



り上げてくれた。港南中学生へもう一度大きな拍手を。来年も楽しい一日を過ごしましょう。それまでお元気で」と呼びかけました。

最前列付近で最後まで舞台へ熱心に拍手を送っていた七十一歳女性と代理参加の六十八歳女性はこの出し物も良かったです。「港南中の生徒さんは、私たちがよく知っている歌をたくさん演奏してくれ、とても楽しかったです」と満足そうに引き揚げて行きました。

●地域の温かみ、高齢者の誠実さ

全体を通じて、会場ではPTAや町会やネットワーク委員会などの女性陣が受付や来場者の世話をする光景が温かく、舞台袖でPTAや地域団体の男性陣が進行や音響に汗を流す姿からは若い世代の高齢者への敬意が窺えました。

また閉会まで席を立つ姿はほとんど見られず、戦後日本を築いてきた高齢者への地域挙げてのもてなしの温かさと共に、参加した高齢者の側の誠実な姿勢も強く感じられた催しでした。

●「喜び悲しみ乗り越え今」と金婚夫婦

終了後、金婚祝いを受けた藤巻幸蔵さん（八〇）・佳子さん（七三）夫妻（三先二丁目）に、これまでの人生や社会への思いを訊きました。

幸蔵さんは一九三四年石川県生まれ。少年時代には長兄のマーシャル諸島での玉砕死や米軍空襲、戦後食糧不足などを経験。高卒後に大阪へ出、民間会社勤務の後、定年まで市営バス運転手として勤務、組合活動にも力を注ぎました。この間に佳子さんと結婚。PTA活動を手始めに、地域振興会、社会福祉協議会、水防団、交通指導、花みどりなどの活動に携わってきました。また折に触れて自身の空襲体験や戦後港区の地上げの様子を小学校で語るなどの活動が続けると共に、松尾田蕉なびに惹かれて俳句作りもたしなんでいます。

一方、佳子さんは一九四〇年長崎県生まれ。貧しい人々に献身的な医療を施していた軍医

の父の元で育ち、やはり戦後混乱期を経て大阪へ。結婚後は長女の病死など辛い体験を乗り越えて家庭を守り抜いてきました。子育て後は趣味の太極拳などを楽しむと共に、町会の女性部長に就くなり、夫と共に地域活動にも注力。この日も参加者の世話役をこなしました。現在夫妻には子供一人と孫二人がいます。

「平成十六年に初孫を得た時、夫婦として一番の幸せを感じました。六十年間、無事故・無違



→金婚夫婦二十三組を代表して港区社会福祉協議会から祝いの品を受け取る藤巻幸蔵夫妻

反で表彰を受けた時も嬉しかったです。退職後は地域の縁の下での力持ちとして微力を尽くし、そのお陰で元気に暮らせたと感謝しています」

「今の社会で一番気になるのは人の命が軽んじられていること。戦争やテロはもちろん、子殺し・親殺し・無差別殺人などが毎日のように報じられ、あの戦国時代でも女子供は殺さなかったことを思えば、今日ほど命が粗末にされている時代はありません。それだけに、あの大戰を経験した最後の世代である我々こそが命の大切さを子供たちに訴え、安んず・安心のまちづくりの先頭に立たなければならないと思っています」

「それと、日本には欧米の資本主義とは違う、成熟した社会の在り方が残っていますが、この良さを若い人たちがこれからどう守っているか、これも気になることです」

このようにそれぞれが語った後、最後に二人で「声を揃えました。嬉しいこと、辛いこと、色々ありましたが、今日は皆さんに金婚を祝って頂き、感謝です。生まれ変わって一年生の気持ちで、これからの人生を歩んで参りたいと思っています。」

叫びたいわ！

今月の提言者

えがわ ひろし

江川 広志さん（39歳 三先）



「大阪都」で豊かになる？

住民自治へシンプルな改革こそ

「大阪都構想」とは、橋下市長を中心とする維新の会が提唱し、この大阪で実行されようとしている大都市制度です。

政令市である大阪市を廃止し、大阪市域を五

つの特別区に分けることによって、豊かな大阪を作るのが目的とされています。

◆協定書はまとめられたが…

大阪市が特別区に代わるには、まず大阪府・大阪市特別区設置協議会（法定協議会）で、大阪府の内容を決める協定書が作られなければなりません。その後、大阪府・市両議会の承認を経て最後は大阪市民の住民投票によって決められます。今年に入り、大阪市長選挙を行ない、法定協議会も維新の会の委員のみに差し替え、短期間で強行に協定書はとりまとめられました。

着々と進む大阪都への道。大阪都になれば二重行政がなくなつて豊かな大阪になるといわれていますが、果たしてそうでしょうか？

◆リーダーふえて重行政の解消は？

「府市合わせ」―これは大阪府と大阪市という二つの利害関係が存在し、二人のリーダーがいることによって、一重行政が発生し、うまくいかないことを表わす言葉です。

大阪都構想では、大阪市域に五人の区長が誕生します。これによって府知事と合わせ、六人のリーダーがいることになります。それだけで

はなく、大阪市域での共通の仕事（たとえば）「三の事業や水道事業など」については、「一部事務組合」を作ります。この「一部事務組合」の事業は二〇〇以上とされています。すなわち大阪市域では七人以上の代表がそろつてになります。さて、これで二重行政は解消できるのでしょうか？

◆権限なくなり、財源もへる

都構想が実現すれば、経済もよくなり、住民サービスも向上するらしいのですが、大阪を特別区に変えるだけで経済がよくなることはありません。むしろ特別区になることによって、大阪市の権限は大阪府に移譲された上、その残りが中核市並みの五つの特別区に分散され、しかも市の財源の七割は大阪府に移譲されます。つまり権限は無くなり、財源も減るため、住民サービスが向上するとは考えられません。

◆「コストかかり、ムダなプロセスも

複雑な仕組みはまた、プロセスが増えることを意味し、プロセスが増えることはコストがかかることにつながります。大阪を五つの特別区にして、区長公選をひき、議会をつくり、財政

調整をするということによって、余分なコストとムダなプロセスが生じる——こんな道すじを経ないと、住民自治はかなわないのでしょつか。そうではないかと私は考えます。

◆市内の都市内分権を丹念に

この大阪都構想のような複雑な仕組みではなく、シンプルな形での制度改革が必要です。

大阪市の場合、政令市を分権していく中で、区民が区政にかかわる場面を強めていくのと同じに、ムダを極力減らす制度設計をしていくことが必要です。大阪都構想のように、権限がなくなっただけに、コストまでかかるというのは、地方分権には逆行しています。

そうではなく、本当に住民自治を実現するためには、大阪府から逆に大阪市へ権限・財源を移し、大阪市内の都市内分権を丹念に行なうことが、よりシンプルな道すじであると考えます。

「リア イズベター」を実現するためには、そこに住む人のための、そこに住む人の多くの考えが反映されるような、シンプルな仕組みこそが求められているのではないでしょつか。

(大阪市会議員おへの正事務所 事務局長)

読者投稿欄

みなとサロン

老いのボヤキ

池島・勝部 泰臣 八十二歳

変わり者と言われるかも知れぬ。

地下鉄に乗って最近目立つのが、ほとんどの人が俯いてスマホとやらをいじっている姿だ。いい歳^{とし}いたおっさん、おばはんが人差し指を忙しげに上下しているのを見ると中酸^{むしゅ}が走る。外国、特に東南アジアから日本へ観光に来た人、まず驚くのは、電車の中の静けさだといつ。分かる気がする。たまに小学生の団体が乗り込んで来て、まあその騒々しいこと。《肩^{まゆ}をしかめる大人たち、君らの方が変なんだよ》

リアモーターカーを東京から名古屋まで走らせるといつ。新幹線では物足りないのか、そんなに急いでいつするの。東西に分かれてテレビ会議（新聞社の論説室など）の時代、どういう人が何の目的で乗るんだろか。九兆円もの大金をJR東海が出すぞうだ。《そんなに儲^{もち}かつ

てんなら乗車賃安くせんかい》

天災、人災が続く。

黙秘を使つての神戸の容疑者。調べる方も人権重視か。こんな人でなしに人権があるのか。女兒の父、母はどんな気持ちか！《私なら弱いから、狂いたくって、大酒くらって、泣きわめいて、もつ死にたいわーと叫ぶだろな》

地震、津波、洪水、噴火……まるで自然の怒りの如く続く。恐ろしさを改めて痛感。天災は諦^{あきら}めの気持ちで付き合つしかないが、この科学の発達した時代、予知する機器は出来ないものなのか。《金がかかるからといつならリアカーなどやめてこつちに回したらどうだ》

日中関係力パワーする章の根交流

市國元町・七十年代 元公務員

「戦禍越え中国から日本へ！ 『残留邦人』 帰国者が港区民と交流」（九月号二頁）が心に残りました。まず「中国残留邦人」とは何か、その起りやその後の歴史はどんなものだったのか、彼らがどのくらい帰国できて、どのくらいがまだ残留しているのか、などがよく分かります。

した。つまり、「この問題は戦後七十年近くたってもまだ解決途上であり、そういつ、いわば流動的な現状のもとで、彼らを世話する帰国者センターと港区民が力を合わせて交流会を開催したということに大変な意義を感じました。これはある意味での日中友好活動であり、現在ぎゅしゃくしている日中関係を草の根でカバーするものでもあると思います。

それについても、「本庄の名前は今も分からない」「言葉の問題では苦労が絶えない」など帰国者の方々の切実なコメントが身につきまされ、一層の公的支援と、また一日も早い全残留邦人の帰国を（もちろん本人たちが帰国を希望されればの話ですが）を願った次第です。ともすれば平和な日本で安穩（あんゑん）といっているだけでもありませんが、暮らしている我々に、よい意味での刺激を与えて頂き、感謝しています。

戦争に翻弄される姿に胸痛む

（八幡屋・四十代女性）

杉原麻子さんの「平和のために戦争体験語り継ぐ」（九月四二十四頁）を読みました。お腹に子供

がいるの「一連軍に虐殺されるかもしれない」と、真夏に屋根のない貨車に乗せられ、満州から北朝鮮まで移動するのは大変だったろうと思います。肉体的にはもちろん、恐怖と不安で、何より精神的に辛かったです。そんな



辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙

状態に、国に対して文句も言わず、ひたすら耐えられたのは、杉原さん自身の精神力の強さと共に、隣の奥さんなど周囲の人たちの助けや励ましがあつたからでしょう。東日本大震災・津波でも發揮された日本人の辛抱強さが、六十九年前のこの時にも發揮されたように思いました。

とはいっても、戦争は庶民ではなく上の人たちが自分たちの都合で起すもの。それに否応なく動員され、利用され、揚げ句の果てに放り出される姿に胸が痛みました。また、卒寿（そじゅ）を超えて、思い出したくもない過去を広く語られる杉原さんの姿勢には心からの敬意を捧げます。

下水処理場の別の顔を見た

（弁天・三十代女性）

バレーボール仲間から教えられて、ネットで港新聞（九月三）を見ました。バレーボール記事（十六頁）も良かったですが、市岡下水処理場の行事（十二、十三頁）が目にとまりました。硬いイメージの施設がこんな柔らかなイベントをしているなんて！ 特に子供向けの「夏休み子供教室」はうちの子（四年生）にも参加さ

せればよかったと後悔しました。市民生活を支える縁の下での力持的な存在で、普段は目立たないだけに、ぜひこのような開かれた催しをしてアピールされるのが大切だと思いました。

がてなわー港区の鯉節問屋

磯路・七十年代女性

「みなと公社ものがたり」を読んで。港区に鯉節問屋という珍しい業種の会社があることを八月三十一頁目で知って驚きましたが、九月三十八頁ではその経営理念の立派さを感じさせられました。

冒頭に書かれてあったように、「とにかく利益を上げて勝ち残れ！」というのが今のほとんどの企業の在り方ですが、その中で「まずは世のため人のため」を心がけ、「日本の食文化の継承」というスケールの大きな目標を掲げ、「鯉節をこの家庭の台所や食卓にももたらせたい」と近所の小学生に削りたての鯉節を提供するなど、地道なPR活動を続けておられることに感動しました。「すべて販売増に結び付けようというものはありませんが」と分かるながら実行されている

ところが立派です。

まだ若い社長のもと、ぜひ日本一の鯉節問屋へ成長されることを願つと共に、私たちも手軽な化学調味料ばかり使わず、伝統的で素晴らしい自然の食材を出来るだけ使つよう心がけるべきだと思いました。

「市立運動場」の花火は死者の慰め

磯路・三十年代男性

「ソビエト勤務の合間にネットで読ませてもらっています。八月三十一頁は「写真で旅する港区」の時二十九頁の「市立運動場」の写真が目にとまりました。こんな広い運動場が昔あって極東大会や日米大会など大きな大会が開かれていたとは驚きです。戦争中は空襲犠牲者の遺体が積み上げられていたという悲しい歴史もあったのですね。そのあとで打ち上げられた花火は、きつと亡くなった方たちの霊を慰めたように思う。この前も書きましたが、昔の港区のことは知りませんが、同じ位置から撮った新旧の風景を並べて見せてもらつて、その間に色々な苦労があったことが想われ、「港区はこんな風に変

わってきたのか」と少し感動します。次の写真も楽しみにしています。

「健康マージャン」楽しそう

市岡・五十年代女性

「健康的な奮闘気」でみなとマージャン大会、酒井さん優勝」の記事（九月三十一頁、三十四頁）を読んで。参加者の真剣で楽しそうな様子が写真や文章から伝わってきました。

マージャンといえば賭け事やタバコの煙といった、どちらかといえば健康的でないイメージを持っていたのですが、この記事から、本来は知的な駆け引きを楽しむ健康的なスポーツであることが分かりました。高齢の出場者がほとんどだった上に、優勝者が七十年代女性だったことも驚きでした。自分でもやれるかな？とちょっとの興味がわきました。

三ツキー集野やとは偉い！

区内・会社員

「リングに子供の歓声 夏祭りプロレス大活況」（九月三十一頁）を読みました。これまでにも何

度が港区のプロレスの記事は読みましたが、主催の「みなとプロレス」代表であるミッキー・黒野さんの青少年に寄せた愛情の深さに感心させられています。たぶん、毎回赤字を出しながらの興行だとは思いますが、そういった採算の厳しさをいわず、いつも障害者施設の子供や若者を招待されているところが立派です。私自身、プロレスはあまり好きではありませんが、こういう世界にも、人気取りや金稼ぎよりも「世のため人のため」を優先させて生きる方がおられることを知り、ものの見方を改められた次第です。

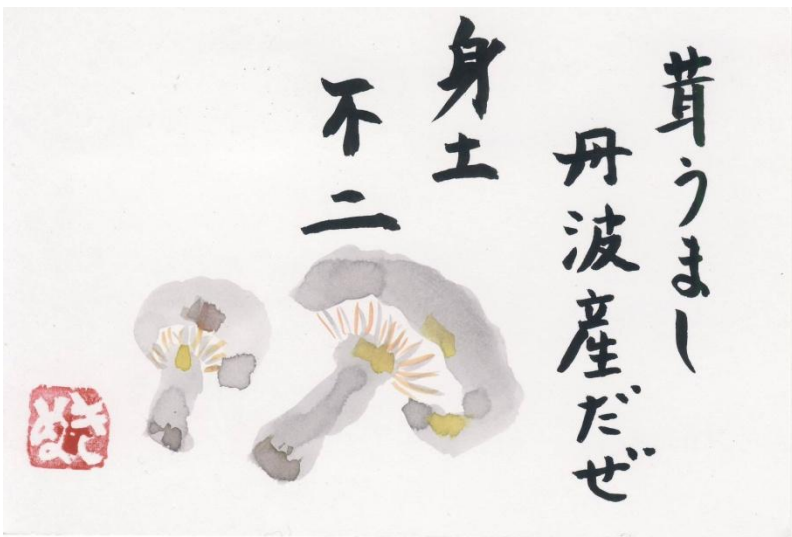
『ぼて丸の恋』結末に切なく

（弁天・六十代男性）

いつもただでネットで（面白）ドラマ（みな）と人生劇場を読ませてもらうって感謝しています。『ぼて丸の恋』（九月「三十二」頁）最終回は、ヒロインと近所の一人暮らし女性を重ねながら読みました。

「デイサービスを受けている九十代の女性・世津子のはるか昔の小さな恋。タクシー運転手・平田広との出会いから至嫁までのデートを経て

これからどんな風に展開していくのかと思っていましたが、やはり戦争に断ち切られてしまった。おまけに「リヤード」で働いていて「ゲーム取り」と蔑まれて、さぞ傷ついた」といふ。そんな悲しい思い出を乗り越えて



→尾崎妃努子さん（池島）からの絵手紙

戦後は独り暮らしの寂しの中で飲食店経営を続け、最終回では再び現実に戻って、かつての恋人の出現を叶わぬ夢と知りながら待ち続ける—その姿が何とも切なかつたです。世津子の振る舞いがさっぱりと潔く、楽天的だけに却って戦争の無情さが胸を突きました。この物語を通じて、世津子だけでなく、この世代の方は多かれ少なかれ戦争の影を背負って生きてこられたことが改めて感じられました。本心に戦争は庶民にとっては百害あって一利なし。一度と起させずにはなりません。

昔の映画も魅力いっぱい

（市岡元町・辻悦子 六十五歳）

シネ・ヌーヴォ（みなとカルチャー）に上映作品を適宜紹介＝編集部）での映画鑑賞を時間の許す限り楽しんでいきます。今の映画もいろいろ、昔の映画も魅力いっぱいです。仕事や表情や言葉（かいなど）に、今は失われつつある優しさ、温かさ、素朴さ、誠実さ、たくましさなどが詰まっています、心が洗われます。

あさやけ

「何の事をも生み出さず、人間を駄目にして大阪のまちを壊し、国を滅ぼす。こんなものを経済活性化」の名のもとに許すことは絶対にできません」と八幡屋の永砂義明さんが前号の投稿欄で警告したのはカジノのこと▼安倍内閣はその推進を「新成長戦略」に明記して特命チームを結成、秋の臨時国会では誘致のための法案通過を画策。それに励まされるように大阪では市長が「都構想の試金石」として「港区を奪取」湾岸区への誘致を叫ぶ有様です▼こうした事態に永砂さんと同様の警告が今、多くの知識人が発せられています。ジャーナリストの古川美穂さんは雑誌『世界』で、リーマンショック後の欧州展開に失敗した米カジノ産業がアベノミクスに乗じて日本を草刈り場にしていくとしてこぞ警鐘。同じくジャーナリストの若宮健太は自著で、韓国の国富カジノ「江原フンド」周辺では自殺・路上生活・詐欺・窃盗・売春が年々増え続ける実態をルポ、「潤うのは外資、腐る

のは国内」といつカジノの亡国性を浮き彫りにしました▼かつてインドの世界的詩人タゴールは「いづれも自由主義諸国では国民の大半は自由でない。彼らは少数者によって彼ら自身知られていない目的へと駆り立てられていると喝破しましたが、いま自由の国・日本で進むカジノ解禁こそまさにその目的へ向かう一里塚。そして、このタゴールの警鐘に応えるがように、同時代の文学者・徳富蘆花は「我らは生きねばならぬ。生きるために謀叛せねばならぬ」明治四四年、一高での講演と叫びました。それは冒頭の投稿の結び「私たち市民はこの問題にもっと関心を持ち、地域の将来、子供たちの未来にも関わる問題として強い反対の声を上げてください」という一貫事に一致します。

× × × × ×

秋場所優勝の白鵬に唯一士をつけたのが大阪出身の豪栄道。その大関昇進の口上に「日本人の我慢強さ、潔さなど色々な意味が籠っている理由で使った『大和魂』が好感をもつて受け止められています▼例えば朝日新聞「天声人語」では、この語が文献上初めて登場した

のは源氏物語で、「中国渡来の学問を日本の実情に合わせて応用する才覚」を意味したらしい」と批評家・小林秀雄が「恐ろしく女の言葉であり、男の頑なな知識とは反対の柔軟な知恵、人間の機微に通じた優しい正直な心を指していた」と指摘していたことなどを明らかにした上で、「豪栄道は的確だった」と結んでいます▼またある地方紙「三ノ宮」では、戦時この言葉が悪用された歴史と絡めて、大和とは「大きく和する意味であり、大きく包み込む深い心こそ日本人の尊厳であってほしい」と求めています▼浅字の筆者は大和魂といえは六〇年代の剛腕ボクサー・藤猛の「ヤマトタマシ」を思い浮かべ、「自分を犠牲にして国のため戦い抜く根性」くらいに捉えていましたが、先のような深く美しい意味があること知って赤面の至りでした▼そうして改めて我が港区を眺めてみるに、区民の間には何と豊かに大和魂の溢れているのか。今言だけ見ても「敬老大会に」「わんぱくまつり」高齢者や子供を包み込む優しい心。それを伝える本紙もまた豪栄道は「これからも大和魂を貫いて参ります」と誓った次第です。

健全な遊びが一杯！

秋空の下「わんぱくまつり」超活況



→秋空の下、工夫された健全な遊びに港区じゅうの子供たちが群がった「みなとわんぱくまつり」九月二十一日、八幡屋公園芝生広場で

「子供たちに健全な遊びと親子ふれあいの場」と九月二十一日(日)、八幡屋公園芝生広場で「みなとわんぱくまつり」が開かれました。三十三回目。主催はみなとわんぱくまつり実行委員会(港区子ども会育成連合会・港区青少年福祉委員協議会・大阪市「ミニミニティ協議会港区支部協議会」と港区役所。協力はスポーツパーク八幡屋活性化グループ。後援は港近隣センター・子ども絵画教室・子ども情報研究センター・八幡屋学友クラブ・みなと子ども囲碁クラブ。爽やかに晴れ上がった秋空の下で港区じゅうの子供や親子連れが、よく工夫された遊びや健康的な飲食を楽しみました。

◆仲間への親子ふれあいの場



→主催者を代表してあいさつする川淵信彦・実行委員長(上)と田端尚伸・港区長(下)

朝十時からの開会式では瓜生由美・副実行委員長が「二日ゆつくり元気に遊んで帰って下さい」と開会宣言。主催者を代表して川淵信彦・実行委員長が「このイベントが子供たちの仲間づくりの場、親子のふれあいの場として思い出のページになり、そのことを通じて、地域のつながりが強まり、心豊かな地域社会となることを願っています」、田端尚伸・港区長が「回を重ねるごとに協力の輪が広がっていることを感じます。これからも安全・安心のまちづくりへ力を合わせましょう」とそれぞれあいさつ。



→参加の子供たちを代表して「お礼の言葉」を読み上げる松田一星くん(左)と上江州花音さん(右)

←みなりん(上左)、おさづー(上右)、マイマイ(下右)、シュラッピー(下左)のキャラ四人組も愛嬌をふりまいてイベントを盛り上げた



来賓を代表して西徳人・市会議員が「子供たちのよき思い出しつりに寄せる多くの協力に敬意を表します。今日は元気一杯遊んで思い出しに残る一日に」と祝辞を述べました。

来賓紹介ハ マスコットキャラクター (港区の「みなりん」、大阪浦川の「おさづー」、大阪市中央体育館の「マイマイ」、地元のフットサルチーム・シュラッピー) 大阪の「シュラッピー」紹介に続いて、参加の子供たちを代表して松田一星(とせいちせい)さんと上江洲花音(かおん)さん(共に港晴小六年、港晴子ども会)が「今日はわんぱくまつりを開くことになりましたが、いづれも僕たち

ち私たちは家の中で遊ぶことが多かったですが、こんなにも広い公園で遊ぶことができ、そして色々なゲームがあり、とても楽しみにしています。今日一日元気一杯に遊んで楽しみたいと思います」とお礼の言葉を読み上げました。

最後に実行委員から五項目の注意 ①全ゲームに一人一回限り使える一枚百円の参加チケットをおつ②出したらヤクルト一本がもらえる感想アンケートを書く③こみは必ず缶・ペットボトル類と燃えるものに分けよ④会場に自転車を持ち入れるのはやめよ⑤十四時半から八十人に景品が当たる抽選があるのでカードの通し番号を確認しておこつ がありました。

◆ 心と工夫を含めた各コーナー



→ 成功者が稀だった「イライラ棒」①と、誰もがのんびりプレーしていた「スマートボール」②

← 少しコツがいった「ヨーヨーつり」③と、面白ようにすくえた「スパーボールすくい」④



このあと午後四時ごろまで、子ども会役員や青少年福祉委員らが心を込め、工夫を凝らして準備した「フストライクアウト」「スマートボール」「や・カーリング」「アーチェリー」「フラバン」「イライラ棒」「スパーボールすくい」「割箸鉄砲」「スフンキャッチ」「輪投げ」「ヨーヨーつり」「バールンアート・切り絵」「ターゲット」「バードゴルフ」など十三の遊び「コーナー」が広場を囲むように設置され、「参加チケット」を首にぶら下げて次々と訪れる子供たちを、それぞれの担当者が汗だくの笑顔で迎えていました。

◆ 体験「コーナー」や飲食模擬店も

また前回から新たなグループの協力を得て登場した「ひまわりを描く」(港近隣センター)

ども絵画教室「絵本読み聞かせ」(公益社団法人へども情報研究センター「ネイチャーイベント(自然遊び)」「八幡屋学遊クラブ」「囲碁体験」(みなこども囲碁クラブ)など四つの体験コーナーも、親子が待ちの行列を作る盛況を見せ、やはり子ども会役員らが準備した「ポテトフライ・チュー・ペット」「たこせん」「ポップコーン」「ホットドッグ」「ミルクせんべい・べんべん」棒ゼリー・ジュース「ミニパンケーキ」「フランクフルト・サンデー・ジュース」「ジュース・綿菓子・焼きそば」など八つの飲食模擬店も、訪れる子供が後を絶ちませんでした。

◆「これも楽しかった」三年男児

会場で参加者に訊きました。このうち「スト



「皆が笑顔で細工していた「ブルーニアート」⑤と、幼児も必死だった「ストライクアウト」⑥

「ユーモラスで人気抜群の「や・カーリング」④と、意外に難しかった「スプーンキャッチ」⑦



ライクアウト」で九枚的のうち三枚も射抜いて賞品のゼリーをもらっていたのは山口ぎゆうま君(三先小三年)。友だちに誘われて三先子ども会から初めて参加しました。「調子は悪かったけど、何とか三枚に当たることができました。

野球やソフトのクラブに入っている訳ではありません。他にジャンケンしたり紙飛行機を飛ばしたりして遊びましたが、どれも楽しかったです」と満足そうに話し、友だちと一緒に次のコーナーへ元気に走っていきました。

◆「百田は負担でなく」五年女児

「ひまわりを描こう」コーナーで水彩絵具を使って美しく個性的なひまわりを描いていたのは弁天小五年の女児三人組。このうち日高

美咲さんは学校の創作遊びクラブで、川亦香澄さんはパソコンクラブで、賞合蘭さんは漫画イラストクラブでそれぞれ活動。この日は各人がお小づかいから百田ずつ出して参加チケットを買いました。日高さんと川亦さんは五回目、曾谷さんは初めての参加です。「みんな絵を描くのが好きなので、とても楽しい時間でした。ほかにもスマートボールやアーチェリー、や・カーリングやヨーヨーつりをして遊びましたが、どれも面白かったです。百田を出すのは特に負担には感じません」と話していました。

◆「意義ある催し」と保護者

両親と一緒に会場を回っていたのは速水海瑠くん(三先小一年)。三先子ども会から初めて参



「男子の活躍が目立った「割箸鉄砲」⑧と、女子も凄腕を見せた「ターゲットバードゴルフ」⑨

「女子の独壇場だった『ラバン』①と、男子の名選手が続出した『アーチェリー』②



加しました。「スーパースポーツをたくさんすくえて楽しかったです」。父親の「弘さん（かすひろ）と母親の真樹（まき）さんは「チケットは子ども会が買ってくれました。子供たちが安い費用で健康的な遊びをたくさん体験できるのは親としても嬉しく、健全なまちづくりにも意義あることです。ずっと続いてほしい催しですね」と話していました。

◆「子供好きやから」と青少年福祉委員

一方、ターゲットボードゴルフの世話の合間に交替で弁当を食べていたのは数下（かずか）勇さん（ハチ）＝池島。四十五歳。そこから二十年以上、青少年福祉委員として活動が続けてきました。「事前の準備や当日の世話など大変といえは大変ですが、もともと子供が好きで、こいつこ

べントも好きなので、しんどいと思ったとは一度もありません」と笑顔で話していました。

◆「百田チケットは反心めて」と実行委員

また、今回から一人一枚百田の参加チケット購入が必要となったことについて、ある実行委員は「チケットは個人で買っても、子供会としてまとめて買ってもかまいません。みんなよく話し合って、一度試してみよう」といって、実験的に実施しましたが、今後については参加者の反心などを見ながら慎重に検討していきたいと思っています」と話していました。

同じ問題について区役所の担当者は「子供たちから参加費を徴収することについては実行委員会でも色々議論はありましたが、運営費の赤字



→素朴さが幼児に受けた「輪投げ」③と、大繁盛だったフランクフルトなどの「飲食模擬店」④

「松ぼっくりなどを使った『自然遊び』⑤や、のびのび描ける『ひまわりを描こう』⑥も大盛況



を少しでも減らすためということで、初めて導入しました。といっても、これで利益が出る訳ではありません。今後については、参加者の反応などを見ながら、よく話し合っていきたいと考えています」と話していました。



夏を思わせる強い日差しの下、広場に響く子供たちの歓声、大人たちの温かなまなざし。毎年のごとくながら、「競争社会の殺伐（ころはつ）とした空気がから子供たちをひとときでも守ってやろう」という地域の愛情と熱が感じられる催しでした。なお、参加費百田徴収の今後については、何より子供たちの立場に立って、よく議論し、検討されることが期待されます。

みなとレポート

●「町猫」フリーマにぎわう 「野良猫をふやさ

ず、地域で共存できるよう行動しましょう」と呼びかけるフリーマーケットが九月二十七日（土）に築港で開かれ、にぎわった。主催は「築港町猫倶楽部」。同倶楽部は昨年末、野良猫保護を続ける個人の自由な集まりの場として結成され、①町猫（地域の野良猫）の避妊・去勢手術を普及する②町猫の一代限り・一生の保護・管理を行なう③町猫の考えを広めるーを目的として活動を続けてきた。資金は寄付やイベント収入で、この日は四回目のフリーマーケット。同地区の主要道路「花の海遊ロード」のクレープ・カフェ「星の森」前で朝から夕方まで開催。地域の人々や外人などの観光客が呼びかけに足を止め、本や衣類や雑貨へ盛んに手を伸ばしていた。同倶楽部の呼びかけ人である西浦雅子さん（築港、天保山公園で「公園ねこサポーター」「野良猫をふやさないよう適切な餌やりや避妊・去勢手術を行なう市公認ボランティア」として活動する

尾崎妃努さん（池島）らは「人も動物も、猫好きな人もそうでない人も、みんなが気持ち良く生きられる地域になるよう、これからも『町猫』の考えと行動を広げていきたい」と話していた。同倶楽部では毎月第一水曜十九〜二十一時に定例会合（場所はその時々、年末年始は変更あり）、毎月第四土曜十一時から定例イベント（中止あり、場所はその時々、十一月の「天保山まつり」でも催しを予定。また避妊去勢手術の実施状況や会計報告を含む「ニュース」を定期発行）、フェイスブックで情報発信すると共に、活動仲間や里親の募集も呼びかけている。問い合わせは尾崎さん（☎〇九〇・八八二二二〇九〇）まで。



↑賑わった「町猫フリーマーケット」(上)、労組が機関紙づくりを学んだ「機関紙学習会」(下)

●「労組が機関紙づくりを学ぶ」 「もつといい機関

紙をつくるため、プロから学ぶ」とと港区の労働組合「港合同・昌一金属支部」が九月二十八日（金）に「機関紙学習会」を開催、本紙代表が紙面づくりをアドバイスした。同支部は電線や電柱に付属する金物の製造・販売を事業とする老舗メーカー「昌一金属」(市岡に本社、福岡に工場、従業員約八十人の労働組合。職場・生産点を土台に労働運動本来の原則的な活動を書き、六十年近い歴史の中で、経営者と労働者が対等に話し合える信頼関係、安心して働き続けられる職場環境を構築してきた。そのため大きな武器となってきたのが支部機関紙『すべらむ』。毎月の定期発行を通じて労働者の社会意識を高め、「春闘」「一時金闘争」など節目の活動を励ましてきた。今回はその上でさらに質の高い紙面づくりをめざして開いたもの。学習会には中崎委員長、木下書記長、機関紙部員ら十数人が参加。講師役として招かれた本紙・飯田代表は「よりよい機関紙づくりのために、地域新聞発行の経験から」と題して講義。まず紙面を見易くするための工夫として「見出しは主見出しと副見

出しのセットで「写真」はトリミングで無駄を省いて迫力を「写真説明」はどの写真にも「などを提示。次いで記事の質を高めるための努力ポイントとして「ルビ」を「冒頭に核心的内容を」「長文には前文や小見出しを」「記者の感性や時代認識も織り込んで深みを」「行事取材では参加者や裏方や第三者の声も聴き取って立体的に」「語りや投稿文にも調整を加えて事実よりも真実を」などを提示、実例を交えて説明した。

終了後の質疑応答では「自分たちの到達点と弱点が浮き彫りになった」「見出しや写真説明の付け方が参考になった」「これを機にできることから改善していききたい」などの感想が出された。

●花☆キャンなど『満月まつり』前夜祭 生活

に根ざした明るく前向きな分かりやすいオリジナルソングで庶民を元気づける市國元町在住の二十三歳差の夫婦ミュージシャン「花☆キャン」が九月 十八日(土)夜、築港の「あわや食堂」で『満月まつり in OSAKA』(十月十一日 北区)の前夜祭を主催した。「Eメールで野古！ まるるい地球 まるるい月 まるるい心」をテーマに開かれる現地・沖縄の『満月まつり』の「呼吸

多彩なミュージシャンで盛り上がった。西成区の新進ミュージシャン、ポセドンさんが『神田川』などでオープニングを飾った後、花☆キャンが登場。住之江区で働きながら沖縄民謡を歌うほごさん(さんしん)の三線も得て、ユーモアあふれる歌詞と明るいメロディが印象的な『エイサーの唄』、白い月桃(づいとう)の花に沖縄の人たちの平和への願いを込めた『月桃』などを披露。夫ーシさんの爽やかな男声と巧みなギター伴奏、妻カオリンさんの愛らしい女声と伸びやかな歌唱が食堂一杯に溢れた。全体として、米軍基地など多様な問題を抱え苦しむ沖縄への連帯の心が溢れる音楽祭となった。



→ 沖縄への連帯が溢れた「満月まつり」前夜祭(上)と老若が声を合わせた「シャンテ☆カフェ」(下)

●「シャンテ☆カフェ」好調 懐かしい歌に声を合わせる

「ねこじゃらしのシャンテ☆カフェ」第五回が九月 十七日(土)午後、港近隣センターで開かれ、中高年女性ら約五十人が楽しい二時間を過ごした。「ねこじゃらし歌サークル」が主催。季節柄、秋に因んだリクエストが多く、『村祭』『虫のこえ』『赤とんぼ』などが、喜多陵(きたたろう)介さんの美しいピアノ伴奏で次々と歌われた。レギュラー司会者の自称・美人ソプラノデュオ「ピチ☆リチ」さんに加えて、この日はゲストの関西合唱団(かんさいくわくだん)団員の上村夫妻(みづむら夫妻)「へ」さんと「カバさん」も司会を担当。鍛え抜かれた発声と朗らかなトークでリードした。「三木露風(みきろふう)は子守娘の背中で見えた赤とんぼが忘れられなくて『赤とんぼ』を作詞した」など歌にまつわるエピソード紹介や、九月誕生者への歌のプレゼントも歌声ムードを一層盛り上げた。「シャンテ☆カフェ」は毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡屋一・四・一〇)で。歌集賞与。参加費千円(税込)。次回は十月 十五日。問い合わせは「ゆずりはの会」(池島三・一〇・一五・一隣) 〇六五七一・六八四二二へ。

あれこれガイド

● 獄中四十年 無実の獄壁から愛と革命「星野

文昭（絵画展）」一九七一年沖縄返還協定批准阻

止闘争で機動隊員死亡の「実行犯」として七五年に逮捕・投獄され、無実を訴え続けて四十年の星

野文昭さん（写真上）が獄中で描いた絵（写真

下）を展示。併せて獄中結婚の妻 暁子（あきこ）さんを迎えて講演会も。冤罪（えんざい）を晴らす支援活動の一環。

時代背景、裁判所の姿勢、新証拠、新証言などを提示し、関心を喚起する。絵画展は十一月十二

日（水）十三日（木）の各十四〜十七時に港区民セ

ンター「楓」（かえで、十五日（土）十一〜十七時に田

中機械ホール（南市岡三・六・一六、六八五八三

・四八五八）で講演会は十五日（土）十五時から

同ホールで。いずれも参加無料。主催は「大阪・



星野文昭さんを取り戻す会。港区の労働者が協力。問い合わせは六五〇二・七三三 同会へ。

● 港区歯科フォーラム 日本人の平均寿命と

健康寿命の差は十年以上。この差を縮め、健康

で長生きするにはどうすればよいか。口を上手

にマネジメントして健康寿命を伸ばす方法につ

いて大阪歯科大学高齢者歯科科学講座准教授・高

橋一也さんが「のびのび歯の健康寿命」と題して講演。十一月十二日（水）十四〜十八時に港区

民センターで。入場無料。終了後十六〜十七時

に「歯科相談も。大阪市生涯歯科保健推進事業

の一環。主催は港区歯科医師会、後援は港区医

師会、港区社会福祉協議会、港区保健福祉セン

ター。問い合わせは港区歯科医師会公衆衛生担

当岡本歯科クリニック（南市岡三・五・三一、

六七四九・二二〇二岡本まで。

● 健康まつり 十月二十八日（日）十〜十五時

（磯路中央公園で。区民の健康つくりを目的

に毎秋開催され、二十八回目。健康チェック（血

圧・体脂肪測定など）や舞台発表（体操・踊り・演

奏・歌など）、バザーや屋台が一杯（写真下）の

上は昨年の様子。今年はつなげよう健康と平



和の「わ」をテーマに子供たちの遊び場や防

災体験コーナーも。主催は大阪きつがわ医療福

祉生活協同組合 港・西エリア健康まつり実行委

（磯路三・三・四、六八五七・一〇六〇六）。

● あゆみ福祉まつり（あゆみ福祉バザー）改

め 十一月三日（月）祝十〜十五時（雨天なら

屋内）、あゆみ作業所（築港二・一〇・一八、天

保山公園南向かいで。内容は舞台発表・自主製

品販売・喫茶コーナー・バザー（写真右の下）は

昨年。同所は主に知的障害者が通所する定員二

十人の指定生活介護事業所。NPO法人大阪港

あゆみ福祉会が運営。障害者の自立や社会参加

を支援。TEL・FAX六五七・一〇七二四。

● ワークみなど「東北食品市」 東日本震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所

が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から（売り切れ次第終了）▽ワークみなどは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕田二六・三六、六五七一一・七五一一）。

●ムチ打ち 省・腰 無料相談会 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。十月二十八日（日）十時十八時に行政書士のむら事務所（築港三・七・一・六〇〇）で。一人約一時間。事前予約制（電話かEメールで。「ぶ」したら止まらぬ補償が得られるかをアドバイスします）「事故後、早めの相談が良い結果につながります」（同事務所・野村光恵さん）。Eメール：info@jikkoo110-nomura.com TEL 六五七六・六〇七六、FAX 六五七六・六〇七九。

●緑の地球ネットワーク(GEN) 中国山西大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境

のため国境を越えて力を合わせている「写真」
全の上はイメージ。以下の協力方法がある。

①会員になる＝年会費二万 千円②会報を購読する＝年間 千円③カンパする＝税制上の優遇措置あり④絵はがき『黄土高原の花』を購入する＝八枚組三百円⑤ビデオ『よみがえる森』を購入する＝三十分五十五分⑥古切手・書き損じはがき・外国コイン・商品券等を送る⑦ボランティアになる＝会報発送など⑧黄土高原スタディツアーに参加する＝そのつど案内⑨DVD『黄色い大地に広がる緑く草の根環境協力の二十年』を観る＝約三十分・無料⑩各種催事に参加する＝「GEN自然と親しむ会・秋のキノコ」を見に行こう⑪微生物研究者で樹木医の栗栖俊浩氏の



案内で西宮市・夙川公園を歩きながらキノコを探す。十月二十五日（土）十時阪急苦楽園口西改札集合、十五時頃解散。参加費七百円。先着二十名。申込締切 十一日（日本の留学生が見た中国）十月二十一日（火）十八時半～二十時半大阪駅前第一ビル五階「市立総合生涯学習センター」第七研修室で。参加費七百円、学生二百円。先着二十名。申込締切十七日（日）▽詳細 申込はGEN事務所（市岡一・四・二四・五階）六五七六・六二八一、Eメール genttree@s4.dion.ne.jp へ。

●日本クリクラフン協会 入院生活を送る子供たちを定期的に訪問し、遊びとユーモアを届け、笑顔を育む臨床道化師「クリクラフン」の活動を普及・推進する特定非営利活動法人。〇五年から港区を拠点に全国で活動＝写真（上）の下は活動イメージ▽支援の方法＝「寄付する」「会員になる」「マンパワーサポーターになる」「関連イベントに参加する」他▽詳細は同協会（築港三・七・五 港振興ビル305A TEL・FAX 六五七五・五五九一 Eメール：info@cc-innicrowns.jp）へ。

八四ヘアが白熱戦

スポーツセンター利用団体がバド交流



→八四ヘア・一六八選手がシャトルを追って心地よい汗を流した「港スポーツセンター利用団体交流会バドミントン大会」 〓九月八日

港スポーツセンター(田中三丁目)を利用するバドミントン団体の交流を深めるため年二〜三回ペースで続けられている「港スポーツセンター利用団体交流会バドミントン大会」が九月八日(日)、同センターで開催されました。港スポーツセンター利用団体交流会(岡野三津茂代表)の主催で千回目。区内外の四十八団体から八十四ヘア・百八十八選手が出場。ランク別混合ダブルス・個人戦に心地よい汗を流しました。朝から夕方まで続いた白熱戦の末、各ランク・各ゾーンを制した優勝ヘアは次の通り(敬称略、カッコ内は所属団体名)。

Aランク ①ゾーン喜来順司(DARK☆H ORSE)・森山滋美(同)②ゾーン多畑正三(小林小)・田中沙織(同)③ゾーン沖和幸(INSPIRE)・太下友紀(WLB)④ゾーン柏木敬史(吉田道場)・田中ひとみ(GOON)

Bランク ①ゾーン岩崎充宏(ブリジャンテス)・有村房子(同)②ゾーン武本義弘(磯路)・山本三千代(同)③ゾーン津坂英男(DARK☆H ORSE)・田中茜(同)④ゾーン南伸明(吉田道場)・富岡桂子(同)⑤ゾーン田部有喜孝(アドレ

ナリン)・古閑裕美子(同)⑥ゾーン田中啓史(LIRE)・福山聖江(同)

Cランク ①ゾーン岡野三津茂(LーBRE)・政岡文香(同)②ゾーン本郷昌彦(ココア)・本郷知恵(同)③ゾーン松永耕治(スマッシュ)・大里章子(同)④ゾーン一井秀遺(大領)・藤森浩代(同)

Dランク ①ゾーン岡井俊典(遊羽会)・丸山美智代(同)②ゾーン滝井陽子(ばみとんとん)・松本直子(同)

代筆

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX:06-6571-4636

Eメール:yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatonews.sakura.ne.jp/

なつかしひつたしいまむかし

写真で旅する港区あの日

▼…戦災者住宅（一九五一年・田中）



→解体中の戦災者住宅Ⅱ一九五一年春、田中町

太平洋戦争末期、港区は一九四五（昭和二十）

年三月十三日と六月一日の大空襲で、合わせて死者千、全焼家屋四万、罹災者十五万五千と

いう壊滅的被害を受けました。その中で住居を失った人たちは戦後、辛うじて外観を保っていた建物に住みつくようになりました。その一つが上の建物で、一九五一（昭和二十）年四月、

当時二十一歳の山本安孝さん（八五）Ⅱ田中Ⅱがその解体工事の様子を写したものです。

◆二三十人住んでいたが追い出された

建物の上にいくつも小さく見えるのは作業中の労働者、手前の黒い筋は安治川と三十間堀川を結ぶ運河、左遠方に白く小さく見えるのは西区川口（かわぐち）に今も残る住友倉庫です。山本さんによると、この建物は戦中まで娯楽施設で、名称は不明ですが、中には映画館や劇場、飲食店などがあり、とても賑わっていたそうです。

「戦後五、六年、二三十人が暮らしてはったかなあ。解体するからゆつて、みんな追い出されて、どこかへ行ってしまいはったなあ」「手前の運河は幅が二十メートルほどあって、鰻が釣れたぞつや。この写真の左の方には、たしか橋

←上と同位置（八幡屋公園）から撮った現在の風景（右に大阪プール、上は阪神高速大阪港線）



が一本架かってたわⅡなどと当時の様子を話してくれました。

その後、この辺りは「国際見本市会場」などとして利用された後、長らく空き地状態が続きましたが、一九九七（平成九年）に「八幡屋公園」として整備され、現在に至っています。

音楽で心一つに

感動呼んだ「ふれあい音楽会」



→生徒たちの心を込めた演奏の数々が感動を与えた「港区ふれあい音楽会」 〓九月十三日午後、オーク広場で（写真は四中学合同演奏）

爽やかに、華麗に、力強く―生徒たちの心を込めた演奏が会場一杯に響き渡りました。九月十三日（土）にオーク広場（弁天二丁目）で開かれた港区ふれあい音楽会には区内の四中学校・一高校の吹奏楽部が口頃の練習の成果を披露、区内外から詰めかけた聴衆に深い感動を与えました。毎秋恒例の文化イベント。一般財団法人大阪市コミュニティ協会港区支部協議会と港区役所が主催、港区ふれあい音楽会参加校グループが共催、ORC200店舗会が協賛。

♪ 回響する心に強まる絆

音楽会は午後一時半から市岡中学校放送部の生徒たちによる司会で進行。開演に当たって主催の大阪市コミュニティ協会港区支部協議会・武智虎義芸会長が「港区の老若男女あがての音楽イベントを大いに楽しんで下さい」と、田端尚伸・港区長が「毎秋、回を重ねるごとに音楽を通じて区民の絆が強まっているのを感じる。今年も多くの方の理解・協力で開催できるように感謝したい。特に五中学校合同バンドの皆さんは大阪市音楽団との共演など貴重な経験を積んで今日を迎えた。中学校合同演奏や生徒自

「コンサートを盛り上げた「みなりん」と見事な司会で進行を支えた市岡中放送部員①



身による司会など手づくりの進行にも注目を」とそれぞれあいさつ。港区のキャラクター「みなりん」が演奏のスタートを告げました。

♪ 築港中は「若者たち」な

トップの築港中学校は庄司晴紀教諭の指導・指揮のもと、二十三人で活動。今年に入って京セラドームで開催の三千人の吹奏楽出場（六月、台湾・台北市立中正中学校弦楽団との交流演奏会）開催（七月）などを重ね、八月には吹奏楽コンクール大阪北地区大会で「優秀賞」を受賞しています。この日は楽しく軽快な演奏で『あいづえおんがく』を、トランペットの響きも懐かしく『若者たち』を、力強く伸び伸びとした演奏で『サウンドオブミュージックメドレ』

『をそれぞれ披露、大きな拍手を浴びました。』

♪ 市岡東中は『君の瞳に恋してる』など

(こじまよし)

市岡東中学校は小島佳子教諭の指導・指揮のもと二十七日で活動。「聴く人をいかに楽しませるか」をテーマに、毎日「時間程度の効率の良い練習を心がけています。この日は力強く律動的な演奏で『The Olympic Spirit』を、はつととした元気な演奏で『Departure from Good Luck』を、ジャズ風のアレンジも軽快に『君の瞳に恋してる』をそれぞれ披露、盛大な拍手を



→『若者たち』などを演奏した築港中⑤と、『君の瞳に恋してる』などを披露した市岡東中⑥

受けました。

♪ 市岡中は『学園天国』など

(かやのまり)

市岡中学校は茅切麻里教諭の指導・指揮のもと「心に響く市岡のサウンド」を言葉に練習を重ねてきました。この日は多様な変化も華麗に『デイズニーフアンティリユニジョン』を、楽しい踊りも交えて躍動的に『学園天国』をそれぞれ披露、大きな拍手を浴びました。

♪ 港南中は『となりのトトロ』など

(むらのけんじ)

港南中学校は村上研一教諭の指導・指揮のもと、五十一人で活動。「明るく楽しく元気よく」をモットーに練習に励んできました。この日はうきうきするような元気な演奏で『となりのトトロ・メドレー』を、高揚感溢れる演奏で『GUTS』を、愉快な踊りも交えた楽しいソリで『よつかい体操第一』をそれぞれ披露、盛大な拍手を受けました。

♪ 同バンドは『ひばりメドレー』など

以上の港区四中学校による合同バンドは七年前、この音楽会をきっかけに結成され、大編成による迫力演奏が可能となりました。今年は一月に中央体育館での「車いすバスケット大会」

←『学園天国』などを演奏した市岡中⑤と、『となりのトトロ』などを披露した港南中⑥



に、八月には大阪城野外音楽堂での「たそがれコンサート」に出演し、大舞台での経験を重ねました。この日は茅切麻里教諭の指揮のもと、透明な声質の美しい独唱も交えた壮大な演奏で『アナと雪の女王より「レット・イット・ゴー」』を、村上研一教諭の指揮のもと、次々と飛び出す会社名・製品名も楽しく『テレビCMオンパレードvol.2』を、小島佳子教諭の指揮のもと、溢れる懐かしさをベースに緩急とメリハリをつけて『美空ひばりメドレー』をそれぞれ披露、大きな拍手を浴びました。

♪ 港高は『アナと雪の女王』など

港高校は^{おとうえまさよ}大上真紗世教諭と^{にし まいき}西真一樹さんの指導・指揮のもと、二十四人で活動。少人数ながら地域イベントなどに積極的に参加してきました。この日は流れるような演奏で『アナと雪の女王メドレー』を、ジャズ風のアレンジも楽しく『ルパン港^{ヴァージョン}Ver.』を、民謡風のアレンジも朗らかに「きやりーばみゅばみゅコレクシヨ」をそれぞれ披露、盛大な拍手を受けました。

♪ 市岡高は『木陰の散歩道』など

市岡高校は^{あしのみやうしやう}潮見裕章さんと^{ていみづ しょう}釋水明 章さんの指導のもと八十一人で活動。「聴く人の心に響く音楽を。」を^{ごうぎ}言葉に練習を重ね、今年の吹奏楽大会では関西大会銀賞を獲得しました。この日は^{あけ}釋水さん指揮で、軽快な口笛も交えて格調高く『木陰の散歩道』を、^{おんこ}厳かな雰囲気の出で『Eatneman^{ヴェリー}vueie〜We're all in this together』(大地の歌)を、演奏者が会場に乱れ入るサブライスも交えて壮大に盛り上がる『Feel the love〜オーメンズ・オブ・ラブ』を

←『アナと雪の女王』などを演奏した港高と、『木陰の散歩道』などを披露した市岡高①



それぞれ披露、大きな拍手を浴びました。

♪ 全員で『花は咲く』を大合唱

全ての演奏の最後には^{あけ}釋水教諭の指揮のもと、市岡高の伴奏で『花は咲く』を会場も一体となつて大合唱。東日本大震災被災地に寄せける港区民の想いが会場一杯に広がり、誰の目にも忘れ難い^だ感動的なシーンとなりました。

♪ 市岡中放送部が「司会」

これら全プログラムの司会を担当した市岡中学校放送部は、校内の活動だけでなく、様々なイベントの司会やスポーツ大会のアナウンスに

も挑戦。今年は「NHK放送コンテスト全国大会」に八人が出場しました。この日はそつた経験の蓄積が感じられる、プロも顔負けの洗練された語り口で各校のプロフィルを紹介し、コンサート^{なだり}の田滑な進行を支えました。

♪ 拍手送り続けた聴衆

一時間半にわたる^{ながひ}長丁場にもかかわらず、会場には区内外から参加した大勢の聴衆が最後まで熱心に鑑賞を続け、演奏終了時はもちろん、各パートの独奏や踊りにもそのつど拍手を送っていました。我が子の演奏風景を記録にとどめようと熱心にビデオを回す保護者の姿も目立ち、最後の大合唱では会場の一体感に感極まり、涙を抑えきれない高年齢者の姿も見られました。

♪ 「力あわせるのが魅力」と演奏者

参加者に感想を^き訊きました。このうち市岡東中学校吹奏楽部の一員として管楽器チューバと打楽器を担当していた^{な しんご}名古竜一朗君(二年生)は「チューバは大きくて重く、強い息の力を必要とする楽器で、演奏全体を支える重要な役割を持っています。吹奏楽部には以前、姉が入っていた影響もありますが、自分自身も音楽が好

きなので入部しました。最初、男子が僕がいなかったで、先生から『チューバは体力がいるけど、やってみない?』と勧められ、担当するようになりました。毎日腹筋を鍛えるなどして、いつか演奏できるよと努めています。今日は(配置が近い)打楽器も担当して、ちょっと忙しかったけど、何とかうまくできました。吹奏楽の魅力は、皆が力を合わせて一つの音楽をつくり上げるという。チューバはあまりメロディを奏でることはありませんが、たまにメロディを奏でられる時はとても気持ちがいいです。音楽を職業とするかどうかなど、将来のことはまだ決めていませんが、これからも楽しく続けていきたいと思っています」と話していました。

♪ 「音楽を通じて成長を」と保護者

また、港南中学校吹奏楽部の演奏後、サクソスを担当した一年生女子に手を振りながら声援を送っていた母親は「いい演奏でホッとすると同時に、夏休みも毎日練習に登校し、今日も朝練に出かけるなど、これまでの大変な頑張りを思い出して胸が熱くなりました。将来どうするかなどはまだ決めていないようですが、これか

↑どの演奏にも温かな拍手を送る聴衆」と、被災地への思いが溢れた『花は咲く』の大合唱

す」と話していました。



♪ 「楽しかった」と八十年代参加者

また築港から息子さんに手を引かれて参加した八十年代女性は「去年たまたま聴くことができたそのイメージが良かったので、来るのは大変だったけど、また参加しました。とにかく楽しく、来て本当に良かったと思います。どの演奏も素晴らしいのですが、特に市岡高はネクタイ姿もシャキッと格好良く、すごい盛り上がりがあり、はばばれました。最後の全員合唱では

皆さんと一緒に大きな声で歌うことができ、とても気持ち良かったです。来年もぜひ来たいです」と話していました。

♪ 「純粋さを社会でも」と六十年代参加者

またこれまで何度も参加してきたという六十年代男性(田中)は「地域も生き方も違う人たちの心を一つに結びつける音楽の力を改めて感じました。指揮に集中する生徒の真剣な表情や、独奏の後で聴衆に頭を下げる姿には、いつもながら胸が熱くなると共に、その純粋さ、誠実さ、礼儀止しさを社会に出ても失うことがないようにと心から願いました」と話していました。

とにかく得電ねん!

LED照明に 換えてみませんか!



コスト減 + 環境貢献

(電気代カット・驚異の長寿命) (CO2を削減・有害物質ゼロ)

- 割れない、熱くない、すぐ点くなどのメリットも
- 店舗、工場、オフィス、家庭、屋外、公共施設に
- 場所や用途に応じてタイプ色々、取り替えも簡単

中小企業で世界初の全社屋LED化<見学歓迎>

前田機械(株) LED事業部

(LED照明・企画販売)

市岡元町2-3-28 ☎6582-5010

<http://www.maedamachine.com>

爆笑！ホラー喜劇

「こどもお笑い塾」が成果発表



「こどもお笑い塾」が夏休み特訓の成果を披露したホラー喜劇『幽霊食堂はー』 八月三十一日、弁天町ORC200生涯学習センター

強烈ギャグやズッコケの連発に吉本新喜劇も真つ青。夏休みの「お笑い特訓」を受けた子供たちが八月三十一日、食堂を舞台にしたホラー喜劇を演じ、会場の弁天町ORC200生涯学習センター講堂を爆笑で包み込んだ。

大阪市出身の放送作家・砂川一茂さん（五）が「人を笑わせ、自分も元気に」喜劇はチームワークと「ミニケーションやで」と「夏休みこどもOH笑塾」（五期目）を開講。小学生ら十数人を数回の稽古で集中的に鍛え上げた成果を披露したもの。

★食堂を舞台に個性溢れるオバケたち

上演されたのは、港区の架空の食堂を舞台にした『幽霊食堂はーテンヤワンやで太さわぎ』。

——「こども真夜中だけオープンする『くらメシ屋』。毎晩、ミミズの天麩羅、ネズミの唐揚げなど怪奇なメニューに、ネコ娘、カップ、のつぱらぼつなど個性あふれるオバケたちが舌鼓を打つ。が、ある時、不動産屋の口車に乗った金持ち母娘が買い取ることに。存続の危機に

オバケたちは動揺し、相談して母娘を怖がらせる。しかし食堂の主人は「せつかく新しい住人

「吉本ギャグもふんだんに（上は）『邪魔すんのやったら帰って』『はいよ、下はズッコケ』



が来てくれはるんや。好かれるオバケになって別の家に移ろつ」。それを知った母娘、「引越すなんて可哀想。私たちは『階』に住みます。一緒に暮らしましょう」「やった」。オバケたちの歓喜の踊りは果てしなく続けた。

「邪魔すんで」「邪魔すんのやったら帰って」「はいよ」などのナンセンスギャグや集団ズッコケなど、お笑いの要素をふんだんに盛り込んだ筋書き。そこから、争いよりも平和を、お金よりも人のつながりを大切しようとのメッセージも読み取ることができました。

◆上のつたの交わり良かった

終演後、出演者や保護者に感想を訊きました。バナナオバケに扮した「いちこ」と津田奏

季ちゃん(五歳)＝中央区＝は初めての出演。オバケらしく目の下を黒くしたメーキャップのまま、「楽しかった。次も出たいです」。母親の麻衣さんは「私の母青木禮子さんがこの喜劇に何度も出た今回も出演した関係で出演できることになりました。初めは緊張していましたが、だんだん慣れて、楽しく練習できています。特に上の年齢の子供たちとの交わりが、幼稚園では出来ない経験として、とても良かったと思っています」と話していました。

◆学校では達成させてくれた

またカップに扮した「ファイカー」と羽賀孝乃(くん)西區・本田(小)一年は、いづれも喜劇三回目の出演。「齋かしたらびつくりして、これとかが面白かった。稽古はしんどくなく、ずっと楽しかった。(将来は)お笑い芸人になりたい。『よいい』が好きです」。母親の美紀さんは「最初は声も充分出せなかったけれど、回を重ねるにつれて、いつの間にか、一人でできるか、自分で考え、工夫しながら演じるようになったようです。学校での成長とはまた違った成長を見せてくれました」と話していました。

◆子供たちのアドリブ重視で

脚本・演出を担当した砂川さんは「今回の作品も台本はあくまで参考程度で、全編にわたって子供たちのアドリブが炸裂するよう意識しました。またいつものように練習日程もあえて短くし、最後まで通したのは前回の一回きり。完璧は求めずに、ゆるい稽古ならではのハプニングや、子供たちが自らが生み出すナチュラルなギャグを重視しました」と話していました。

なお、十一月六日(土)には「お笑い塾」二期目の開講が予定されています。受講無料。問い合わせは ☎六五七七・一四一〇同センターへ。

子や孫に
自分の人生を
のこそう！

島根県から上阪し、金属系企業で働きながら労働運動にも力を注いできました。全国的な運動退潮の中、10数年前に第一線を退きましたが、この間の経験と教訓がいつの日か運動の再興に役立てばとの思いから港新聞に相談し、冊子にしてみました。(70代男性)

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

お話をききとり、冊子にしてお渡します。

400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

ライブ情報

●八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん

所属バンド「ガーゴイル」の新アルバム『解識』好評▽十一月三日(月祝)十八時半からなんば Hatch へ、十一月五日(水六日)十九時からアメリカ村 BURG AT で、所属バンド「ザ・クロマニヨンズ」のツアーライブ「ガンボイソフェル」2014・2015」に出演予定。

●二先のフォーク歌手ペドロさん

三木曜 千時サ・セラ(中央区西心斎橋) 一七・二三 新スミヤビル地下▽毎月第三火曜二十時のおの遊び場(中央区宗右衛門町四・五 宗右衛門町センタービル) 階▽毎月第一火曜二十時半ロージー(中央区西心斎橋) 一・九・五 日宝三ツ寺会館地下一階。



「桐田勝治さん(上)とペドロさん(下)」

女性の哀しさと逞しさと描く

石炭倉庫『秋晴れ寺前風景』に反響



→戦中・戦後を生き抜いた女性の哀しさと逞しさが胸を打った『秋晴れ寺前風景』(左はくめくめこさん、右はゆうこさんのバージョン)

戦中・戦後を生き抜いた女性の哀しさ・逞しさが胸を打ちました。大阪・下町の秋の一日の情景を描いた『秋晴れ寺前風景』が九月下旬、波除のフリースペース「石炭倉庫」で上演され、反響を呼びました。石炭倉庫を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがにおまる一座のスタジオ公演。大阪の庶民の人生を優しく温かく、また面白く味わい深く描き取って定評のある直木賞作家・難波利三さんの短編から、あんがにおまる座長が演出。くめくめこさんとゆうこさんが出演。

◆ たて焼き屋のおばちゃん的人生

——大阪・下町のお寺の前で屋台のたて焼き屋を二十年つづけるおばちゃん。ある秋の午後、女房に逃げられ幼い女の子を連れ歩く男性が客になる。おばちゃんは女の子の目を細め、たて焼きをせっせと焼きながら、男性に自らの過去を語る。彼女は原敬が暗殺された大正十年十一月四日に生まれた。昭和十七年に「上原謙似のええ男」と結婚し、豆腐屋の女房として幸せな新婚時代を過ごしたが、昭和十九年に夫は出征。

そのときお腹には四く五カ月の子供がいた。昭和二十年の三月空襲のさなか、産婆に逃げられ自力で長女を出産。夫の生死も分からぬまま終戦を迎えた。戦後は女手一つで子供を育てながら生き抜いてきたが、河内の好色な爺さんに困われた揚げ句に僅かの慰謝料で捨てられたり、若い燕と同棲した果てに年頃の長女とその男に財産もろとも駆け落ちされたり、散々な目に遭ってきた。この店も、材料費の値上がりなどで、いつまで続けられるかわからない。それでもおばちゃんは明るくたくましい。いつも犬の散歩に通るかかる裕福そうな男性と茶飲み友だちになってもなつて余生をゆったり、なんて夢を見ている。そして客の男性にも「いつまでも逃げた女に引きずられんと、この子のためにもええ女の人見つけや」と励ますのだった——。

◆ 旦那がうつろいし女房

完全なひとり女房。一座の中堅女優、くめくめこさんとゆうこさん(ダブルキャスト)が一時間超の長台詞を我がものとして熱演しました。異なる個性ながら、二人とも、しみじみとした味わいの語りと共に、メリケン粉(小麦粉)を水

に溶いたり、タ「焼き器に油引きで油を敷いた
り、タ「焼き器の穴に粉つぎでメリケン粉を注
いだり、タ「や天カスを指先で穴に放り込んだ
り、焼けた生地を千枚通しでひっくり返したり、
かがんでカスの火を調節したり、また作業の途
中で子供に愛想を言ったり、といったプロの仕
草がよく研究され、実に自然でした。

◆ 苦難に負けない楽天性

全体を通じて、取り立てて変わった事件も起
こらない大阪下町の秋の情景から、戦争に翻弄
され、戦後の自由で退廃的な空気に翻弄され
てきた女の哀しさ、そつした苦難に負けない逞
しさ、そして「ま、世の中、捨てる神あれば拾
う神ありで、うまくいってきまっせ。角度を
代えて眺めてみたら、なんや、そんなことやっ
たんかいなと、よ（見えてくる）とが、ぎょう
さんおまつせ」の台詞に象徴される、人生への
達観あるいは楽天性が伝わってきました。

また、場面転換の全くないうでアクセント的
に挿入される、控えめではの明るい音楽が、庶
民の間に通うほのぼのとした空気を表わし得て
妙でした。

演劇ガイド

● クレイジー・コメディ『授業』 演劇 of

fice いがき(住友江区)による喜劇。女子学
生が老教授宅にやって来て、最初は型通りに授
業が進むが、やがて教授の言葉が宙に舞い出し、
学生の気力も失せ、お手伝いが意味ありげに絡
んでくる。台詞回しが滑稽な半面、人間存在の
空虚さがあぶり出されてゆく。一九五〇年代
にベケットやワダモフと共にフランス不条理演
劇と呼ばれるジャンルを作り、現在でもパリで
作品が上演されている劇作家フジエヌ・イヨ
ネスコの原作を、若い頃に新文学座で活躍した
井垣泰介さんが演出。出演は井垣泰介さん、西
原里菜さん(劇団ひまわり)、あんがいおまるさ
ん(あんがいおまる一座)。十一月七日(金)十九
時半、八日(土)十八時、九日(日)十六時の三回
公演。料金は前売三千五百円、当日四千円。詳
細問い合わせや申し込みは会場の石炭倉庫(波
除ハ・五・一八、JR弁天町駅から徒歩四三三号
を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。 ☎
六五八一・〇六八四、チケット専用フリーダイ
ヤル〇二二〇・三三四一・三九)へ。

芸能ミニ情報

● 港南中出身の歌手・川奈ルミさん 十一月九

日(日)正午から大阪ベイタワーホテル(弁天で
十五周年記念曲『これも愛それも愛』発表会。
会費二万円(食事・フリードリンク・CD付)
▽独特のハスキーボイス、日本人離れたパン
チ力、リテン仕込みのリズム感に裏打ちされた
歌唱力に高い評価▽本名小牧ルミ子。リテン、
カンツォーネに魅せられ、高卒後上京。故朝月
廣臣氏に師事。二〇〇〇年『湖愁記』でデビュ
ー。『元町ブルース』『夜明けのブルース』『愛に
つながれて』などシングル多数。アルバム『愛
の詩』▽〇三・五三九七・六七六七(株)朝月。



→新曲を発表する港南中出身の川奈ルミさん

義理と人情に酔う

築港高野山「浪曲まつり」活況



→夏の終わりに多数が来場し、義理と人情の世界に浸った「浪曲まつり」八月三十日夜、築港一丁目の築港高野山釈迦院で

夏の終わりの夜空の下に義理と人情の世界が広がりました。八月三十日夜、「浪曲まつり」が築港高野山釈迦院で催され、多くの人々が浪曲や河内音頭を通じて交流しました。公益法人・浪曲親友協会と築港高野山と築港高野山世話人一同の二者共催で六十回目（参加費は無料）。

◆港区は近代浪曲の地だった

港区はかつて港漕荷役労働者の心の癒しとして近代浪曲の興行が盛んに行なわれ、戦前の「築港高野山」には浪曲のルーツとして知られる藤原澄恵の碑がありました。戦災で本堂と共に碑も焼失しましたが、一九五一年に現在地へ本堂が再建され、五四年には浪曲親友協会により境内に浪曲塔が再建・建立されました。そして、その年の八月二十日に浪曲塔の慰霊と地域振興と港漕荷役労働者の慰労を兼ねて「浪曲まつり」が開催され、以後、毎年この時節に回を重ねながら、日本伝統の語り芸を後世へ継承する場、浪曲ファンの楽しみ場、市民と浪曲師との交流の場として親しまれてきました。

◆会津の小鉄の少年時代を生きると

この日は午後八時、時折り爽やかな風が境内

←『会津の小鉄の少年時代』を生き生きと演じる京山幸太さん①と、風格と華のある語りで『両国夫婦花火』を熱演する春野恵子さん②



を吹き抜ける中、関西浪曲界の大御所・京山幸枝若さんがあいさつに立ち、参加者への感謝と共にプログラムを紹介しました。

第一部「浪曲」部の最初に登壇したのは幸枝若さんの弟子・京山幸太さん。関西外大に通う現役大学生で弱冠二十歳。外題（演目）は『会津の小鉄の少年時代』。

——江戸末期から明治初期に活躍した京都の侠客・会津の小鉄が「仙吉」と呼ばれていた十三歳ころの逸話。ひよんな出会いから岡崎城下のある親分の世話になるが、生意気が過ぎて兄貴分から疎まれるものの、生来の義侠心から女中の不始末を自分の所為にして助けてやり、「え

えとあるなあ」と見直される。やがて、弟を騙し討ちされた親分が無念を晴らすに出向いたものの窮地に立たされると聞いた仙吉は、多勢に無勢も厭わず駆け付け、水戸藩士だった親譲りの腕っ節で見事、親分を助け出す。インテリだからめづけた雲井氣に若手らしい元気な語り口が少年小鉄の意気の良さと重なり、聴く人を熱くも清新な義侠の世界へ誘う。クライマックスの矢作橋の立ち回りでは盛大な拍手が起りました。

◆華麗！「西国夫婦花火」

続いて登壇したのは春野恵子さん。ニューヨーク公演も果たした国際派・実力派の女性浪曲師です。外題は『西国夫婦花火』。



→ 絶妙の合三味線・合の手で高座を支えた曲師・

一風亭葉月さん①と、拍手を送る参加者②

——江戸・西国花火の持ち場は、川上が鍵屋川下が玉屋。その鍵屋へ「せめて一発、この二尺玉を鍵屋の名で上げさせてくれ」と見知らぬ男類かむりの下は火傷の痕。実は鍵屋の跡取り豊三郎で、玉屋の娘およしと祝言を上げたものの芸者に入れ上げた揚句に家を飛び出し、三年も便りがなかったのだ。実の息子と見抜いたものの親の甘さを見せられぬ鍵屋は涙を吞んで追い返す。が、五月下旬の川開き、息もつかせぬ川上・川下の競演の最中、これまで見たこともない大輪の花。その下には鍵屋の法被。「あれはと言ったのに」と法被を取れば女の柔肌。「およし！」「お義父さん、女人禁制は承知の上、あの人、二尺玉、死ぬを覚悟で打ち上げました」「そうだったのか」。見事な技と強い絆に打たれた両家主人、改めて二人を夫婦と認定。江戸の夜空に打ち止め花火が一際大きく咲いた——。

華やいた表情と仕草、リズムカルな口調、男女の物腰の見事な使い分け、こころで見せる圧倒的な声量、そして、マイクと照明が一時途切れるハプニングにも動じぬ胆力。クライマックスの川開きでは総天然色映画を彷彿させる

← 河内音頭のトップを飾った真山隼人さんの熱唱①と、時間を忘れて踊りまくる参加者②



迫力と華麗さに、聴衆が静まり返りました。

また二席とも、語り手と絶妙に呼応した曲師・一風亭葉月さんの合三味線と合の手が、感動を二層深めました。

◆河内音頭で一大交流

第一部「音頭」部では幸枝若さんをトリに十一人が次々と登壇、真山会社中と親友会社中のお囃子・伴奏で、河内音頭や江州音頭を熱唱。来場者は幾重にも踊りの輪を形成、いつ果てるもしれぬ熱気が夏の終わりを彩りました。

参加者の一人、吉村さん(六九)「築港」は「夏らしい趣向で楽しませてくれました。浪曲は義理人情の世界に浸れるのがいい。これからも聴きに来たいです」と話していました。

みなと

人生

劇場

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがフィクションとしてつづる「当地ドラマ」。シリーズ第八弾は、あの「おしん」にも匹敵する、田中在住の名もなき九十年代女性が出た波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語。

幸運橋の空 (二)

大東久美子（たひしひくみこ）は現在、次男夫婦の世話で何の不安もなく過している。週二日、港区内のデイサービスセンターに通っているが、何かと他人の世話を焼くのが好きで、服の外れたボタンを留めてあげたり、エレベーターの中では手押し車を、出る時にやさしいような向きを変えてあげたり、どれどもちよつとしたのだが、気がついたらしてあげている。自分でも「何でやめるの」と思いつくくらい自然に気持ちと体が動いている。また「どの人にも必ずよいところがある」と信じているので、それを見つけては誉めてあげて

よ心がけている。そのための誰しも仲良いで、楽しい毎日を送るようできている。

そんな幸せな日々の中、次男が久美子の九十余年の人生を「文字にして残したらどうや」と言ってくれた。確かに自分でも起伏のある面白い人生を生きてきたように思っていたが、そうした経験は自分の胸にしまったまま墓に入ろうと決めていた。が、熱心な勧めに気持ちが変わった。「私の拙い人生経験から子や孫たちの世代が何かを感じてくれ、今の難しい世の中を生きていく上で少しでも役立つなら」——そう考え、思い切って語ってみることにしたのだ。

聴き取りを託されたのは、次男が懇意にしている自称・代筆屋、はかならぬ私だった。「息子である自分には、母を客観的に見て、その歩んできた道をまとめ切る自信がない」といつのが元公務員である次男からの依頼の理由だった。

私は週に一度、各回約「時間、デイサービスのない日を選んで久美子の元へほぼ二カ月通った。口から泡を飛ばすような久美子の話しぶりに最初は圧倒されながらも徐々に慣れ、次男の嫁が出ていくなると茶菓子で時々ひと息入

れながらペンを走らせた。「年代順にしゃべってくれますか」と一応の願いはしたものの、しばしば話が脱線・逆行・分散して場所や時間や人間関係が錯綜・混乱する話しぶりにも「気持ちの流れを切りさめよう」「記憶の映像を乱さぬよう」といふほど好きなようにしゃべってもらい、聴き取ったあとでそれらを並べ替え、繋ぎ合わせ、齟齬を調整し、辻褄を合わせた。そうして多少の想像も加えて話の隙間を埋め、また、さほど重要と思われる部分は削り落とすなどして出来上がったのが、これから話す物語である。

題名にある「幸運橋」は大阪市港区に戦後しばらくまで実在した橋。苦勞続きだった久美子に文字通り幸せを運んでくれた。いつ、どのようにして？ それはこの長い人生劇場の最後の一幕まで付き合った人だけが知るようだそう。

● 大阪市浪速区に生まれる

久美子は大正十（一九二二）年九月十八日、大阪市浪速区で、父・木下弥太郎と母・ハツの末子、八人兄弟姉妹——上から静子、久美子、善道、捨五郎、電子、幸子、照子、昭九郎——の第一子（次女）として生まれた。大正八（一九一

七)年に生まれた姉の静子は父の里へ養女に出され、また幸子は生まれてすぐ死んだので、結局、久美子が「二人兄弟姉妹の長女」ということになった。一番下の昭九郎は昭和九(一九二四)年に生まれたのでそう名づけられたのだが、久美子とは十三歳離れていた。

久美子が生まれた時、父・弥太郎は三十二歳、母・ハツは二十五歳。第一次世界大戦(大正三〜八年)後の好景気から関東大震災(大正十一年)を経て世界恐慌(昭和四年)へと向かう、とても不安定で動きの激しい時代だった。

●腕のよいベルト職人だった父

弥太郎は大阪府富田林市の豪志の出だった。ハツと結婚する前にも一度結婚していたが、弥太郎の母親(つまり久美子の祖母ルス)はその嫁を気に入らず、「行き届かん女子や」と里へ帰ってしまったという。弥太郎は二十八歳で十九歳のハツと結婚したが、その頃には浪速区の新田帯革^{にいつたおひなづ}というベルト製造会社に勤めていた。既に職長の地位にあり、自ら耐水・耐熱の画期的な新製品を開発するなどして会社に貢献し、技術者として重宝^{うづかい}される存在だった。

←久美子が生まれた頃は世界恐慌などの影響で、動きの激しい不安定な時代だった。上は公園で日向ぼっこする失業者、下はストに突入した紡績労働者(どちらも昭和五年ごろ)



弥太郎はまた、筆で楷書や草書でさらさらと巻紙の手紙などを書くことができ、算盤の腕もなかなかのもだった。というのは、弥太郎は十八歳くらいから生家に近い富田林市新家の岡田という旧家(地主)へ男衆(男の奉公人)として奉公していたが、東京の大学で学んでいたその若旦那^{だんな}が、夏休みなどに帰省した折、弥太郎に色んなことを教えてくれたからだ。

●女や賭け事で母を困らせた父

弥太郎はこのようによく働く腕のよい職人であり、その子ももあり、何事にも器用で、また酒も飲まなかった。が、その代わりに女遊び

や勝負事が好きで、ハツを相当困らせたようだ。中背^{ちみせ}のやせ型で、パリッとした服でさつさつと歩く姿は男ふりがよく、人目を惹いた。

ある時、弥太郎は仕事帰りに女を街角で待たせ、そのまま家へ連れ帰った。久美子の姉(静子)を孕^{はら}んでお腹の大きかったハツが戸惑っているところ、「人が来るのに、なんでお茶も出せへんねん」と怒鳴り、挙げ句に「なんか着るものないんか」と着物を出させ、それを羽織^{はおり}るや「さ、ご飯でも食べに行こか」とその女の肩を抱いてさつさと出かけて行ったという。タフシーを外で待たせ、一緒に乗って行ったこともあったそうだ。そんなことがあって、ハツは後日、「あの時は何べん死のと思ったか分かれへん」と振り返っていた。

●父の退職で引越す

久美子が生まれて間もなく、家族は西淀川区の花川町^{はながわ}という所へ引越した。近くに淀川が流れ、鼻川神社(町名は「花川」だが、神社名はなぜこうなっているか)があった。

引越した理由は、弥太郎が会社を解雇されたからだだった。

平和のため

戦争体験

語り継ごう

すぎはら あなこ

杉原 麻子さん(九四) 南市岡在住 ③



前まで 一九〇年香川県農家の農家に生まれ

私は、中国大陸で戦火が拡大する中、尋常小学校、高等女学校を経て看護学校に三年間学んだ後、赤十字病院で一年間、中国から送られてくる傷病兵の看護に追われた。二十歳で結婚し、

満州の首都新京へ。休日には大車で観光を楽しむなど不自由のない生活を送ったが、戦局は悪化し、一九四五年四月には夫も召集され戦地へ。八月、ソ連参戦で新京は大混乱に陥り、お腹の子を抱えて無着陸車で北朝鮮へ避難。あてのない疎開生活に入った。

敗戦で事態急変

北朝鮮から満州へ逆戻り

この北朝鮮での疎開生活で治安がよかったのはほんの四〜五日でした。が、運命の八月十五日。「重要な放送がある」といので、一同一カ所に集合。そこで戦争の終わりを告げる陛下の玉音放送を聴いたのです。「まさか日本が負けるなんて」。想像もしていなかっただけに、皆の戸惑いは格別でした。それに、慣れぬ異境ゆえの不安が追い打ちをかけました。

◆最悪の事態も覚悟

事態は急変。日本人の校長は権限を失って幽閉の身となり、現地人の教頭が実権を握りました。それまで教室の壁に掛けられていた乃木将

軍や東郷元帥の額は叩き落とされ、踏んでめちゃめちゃに壊され、教材は破って焼き捨てられ、教室の中は目もあてられない惨状となりました。現地の住民は私たちに「今すぐ出て行け」といわんばかりの態度で迫ってきて、殺気立つた不穏な空気が漂い始めました。日本政府に不満を持つ人や個人に恨みを持つ住民も多く、いつ集団で襲われるか分からないので、もしその時は「竹槍で応戦し、最悪の場合の覚悟だけはしておけよ」とこの訓示がありました。

悲壮感と恐怖が錯綜する、何とも言えない空気の二〜三日が過ぎていきました。が、そこへ運よく親田家の青年が現われ、興奮状態の住民をなだめ、説得してくれたお陰で、事態はある程度好転しました。

ところが今度は、それまで平壤の軍隊から送られてきていた食糧が止まってしまったのです。その上、夏休みも終わりに近づいて、小学校を追い出される日も迫り、その時は駅前の窓一つない倉庫へ移動するよう言われていたので「いつそなるのだろうか…」と落ち着かない毎日でした。

◆ 列車で再び新京へ

そんな時、「汽車が出るのさ」と誰かが聞いてきました。「嘘に決まっている」と思いながらも、みんな心の底では「南でも北でもいい、ここから離れるようさあせれば」と願っていました。そして、これが単なる噂ではなく真実で、恐らく最後であつた満州行き列車に乗ることができようとは。まさに奇跡に近いと私たちは感じ、互いに手を取って喜び合ったものでした。しかし実際には、それは新たな苦難の始まりでありませんでした。

八月二十日。全員の「帰満」が決定。大急ぎで手回り品をまとめて列車に乗り、ひと息つきました。ところが二三の駅を無事通過し、次の駅に停車すると同時に、待ち構えていた数人の暴民が棒を持って貨車に乱入。目ぼしい物品をそっくり略奪していきましました。あつという間の出来事でしたが、恐ろしい身も縮も思ひでした。命まで取られなかったのが不幸中の幸いと、皆互いに慰め合ったものでした。

再び汽車は走り出しましたが、新義州まで来たといつて、今度は現地人との間で何かトクブ

← 敗戦直後から大混乱が見られた満州各地



ルがあつたようで、立ち往生。理由も分からないまま丸一日が過ぎ、いろいろしました。やがて話し合いがついたのか、汽車は「トコト動き始めました。鴨緑江を渡ると、満州の安東市でした。満州に入ってから治安は悪くなる一方で、暴民の夜襲を避けるため、夜は駅に泊り、昼間だけ走り、そうしていつにか新京に辿り着きました。

◆ 市内は平靜も我が家は略奪され

再びの新京では、ソ連兵が威嚇して撃ち上げ

る銃の音が遠くに近くに響き、とても無気味な感じがしました。

それでも市内は予想していたよりはるかに平静で、それほど悲惨な光景もななく、ソ連軍の占領下にあるとはいえ、落着きを取り戻しているように見えました。「こんなことならわざわざ苦労して朝鮮へ行かなければよかったのに」。

しかし肝心の我が家は既に暴民に襲われ、地下に隠していた家財や衣類の全てが略奪されていたので、やむなくAさん宅に身を寄せました。

◆ 開拓地からついに難民が

Aさん宅のある興安大路は市の主要幹線道路になっていて、道幅も広く、四列に整然と並んだプラタナス並木が太く鬱蒼と茂り、戦前は美しい町でした。が、この道の向うの緑園地帯には軍の官舎があり、そこが難民収容所になっていた。開拓地から送り込まれてくる難民が毎日、前の歩道をぎぎぎと通つてその収容所に向かつていました。そのほとんとは老人や女、子供でした。

平静と見たのは表面だけだったのです。

(つづ)

文化的イベント案内

みなとカルチャー

● 港図書館

①図書展示「ようこそ書物の森へ」展Ⅱ大阪市立図書館司書二〇一人が「書物の森」というテーマに沿って選んだお勧めの本を展示。十一月二日(土)から②「せん」の風のかみしばいⅡ十一月二日(土)十五時半〜十八時、じゅつたんコーナーで③おたのしみ会Ⅱ毎週水曜日十五時半〜十八時、じゅつたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要④あかちやんのおたのしみ会Ⅱ毎月第一金曜日(十一月は七日)の十一時〜十一時半、じゅつたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要⑤図書展示「食育の本」展Ⅱ心豊かな食生活のため、食に関心を持つてもらえる本を展示。十月三十一日(金)まで開催中⑥第四回「One Book One Osaka」展Ⅱ同展で投票された本を紹介。十月二十八日(日)まで開催中▽**〇八五七六・三三四六**。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「いずみホールシリーズ vol. 35」

「感動の系譜」古典からロマンへ」をテーマにクラシックの魅力を再発見する「ザ・ディスカバリーシリーズ」の三十五回目。今回は「バリエーション〈変奏曲〉」と題し、作品ごとに新たな側面を映し出す天才的アプローチを見せる同楽団音楽監督オーギュスタン・デュメイさんの指揮で、日本を代表するチェリスト堤剛(ついで)さんの存在感溢れる独奏を得て、バラエティ豊かなライン



→ 関西フィル「いずみホールシリーズ」で指揮を担当するオーギュスタン・デュメイさん(©Thibault Daguzan)と、チェロ独奏を担当する堤剛さん(©鍋島徳恭)

ナップを楽しむ。演奏曲目は、①チャイコフスキー：奇想的小品 作品62 ②同：感傷的なワルツ 作品51-1-6 ③同：ロココの主題による変奏曲 作品33 ④フツエル：「マ・メール・ロフ」組曲⑤ブラームス：ハイドンの主題による変奏曲 作品56a。十一月二十一日(金)十九時からいずみホール(JR大阪環状線「大阪城公園」駅から歩約三分、同「京橋」駅南口から歩約八分、地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪」ビジネスパーク駅から歩約五分)で。S席五千円、A席二千五百円(主席指定消費税込。無料託降サービスあり(先着三十名、申込締切十一月七日))。〇八五七七・二三八一。

● 井天町ORC200生涯学習センター「オーク井天寄席」 旧・井天町市民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第五回、通算第三三八回。十月二十一日(水)十九時〜二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南麟さん(大阪出身の講談師、旭堂南稜門下)をレギュラーに、今回は桂春若さん(泉佐野市出身、桂春回治門下)、林家卯三郎さん(岐阜

出身、桂春回治門下)、林家卯三郎さん(岐阜

← 弁天町ORC200生涯学習センター「オー
ク 弁天寄席」にレギュラー出演する落語家笑
福亭學光さん(上)と講師・旭堂南鱗さん(下)



県出身、林家染丸(門下)も。先着田 二十名。当
日五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会
同センターが主催、ORC200店舗会が協賛
ラジオ大阪が協力。 ☎八五七七・一四一〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター・弁天

シネマ倶楽部『イヴの総て』 「心に残る名作

映画を低料金で多くの市民に」と旧・弁天町市民
学習センター時代に企画され、人気を博したイ
ベントの再開第三回、通算第三十八回。一アメ
リカ演劇界最高の栄誉、シドニア賞を手にした
のは、わずか八カ月前に田舎から出てきたばか
りの駆け出し女優イヴ・ハリントン。奇跡のよう
なシンシア・フーストリーに、会場は割れんばか

← 弁天シネマ倶楽部『イヴの総て』の二場面



りの拍手。しかし、真実を知る人々は沈黙する。

かつてイヴが付き人をしていた大女優マー・
チャニングでさえも…。実はこの受賞には思い
もよらぬ陰謀があった。作品賞はじめアカデ
ミー計八部門を受賞。女優たちの熱演が光る。

監督はジョセフ・L・マンキーウィッツ。出演は
ベティ・デイヴィス、アン・バクスター、ジョー
ジ・サンダース、ゲイリー・メルル他。一九五〇
年アメリカ、モノクロ三十八分。十一月十五日
(土)十時と十四時から講堂で。料金は一人一回
六百円(前売五百円)。定賞は各回先着百名。当
日十二時 二十分からロビーで無料ライブを予定。
☎八五七七・一四一〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「iP

ばんのうた」 「次世代へ歌い継

ぎたい日本の歌を、本格的なオペラ歌手の歌声
と共に、背景やエピソードを学びながら楽しも
うと旧・弁天町市民学習センター時代に企画さ
れ、六回に亘って人気を博した「レクチュアコン
サート」シリーズの「アンコール」に込めての総
集編。四季それぞれの自然やその情景、そこに
織りなされる人生のひとこまを描いた歌を特集。

出演はソプラノ・小堀史絵さん、バリトン・橋

茂さん、ピアノ・金岡優子さん。企画・構成・司

会は太田道宏さん(関西フィルハーモニー奏者)。曲

目は「赤とんぼ」「虫のこえ」「里の秋」「冬景色」

「冬の夜」「雪」「早春賦」「春が来た」「春の小川」

「花」「朧月夜」「夏は来ぬ」「われは海の子」「夏の

思い出」「村祭」「十五夜お月さん」「紅葉」他。十一

月十七日(月)十九時から同センター講堂で。料

金は一般千八百円(前売券千四百円)同センタ

ーで発売中、小・中学生九百円。定員百二十名(先

着順)。 ☎八五七七・一四一〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「iP

ad体験講座」はじめての「iPad」 iPad

d(タブレット)に興味のある初めての人が対象。

文字入力の仕方やメールの使い方などを、実際に触りながら学ぶ。十一月二十八日(金)十三時十七時。定員十名(多数抽選)。受講料三千八百円。講師はNPO法人おおさかシニアネット。申込は往復はがきかインターネットから来館で(十一月十日必着)。☎六五七七・二四一〇。

●シネ・ヌーヴォ『黒澤明映画祭』 たぐいま

れたエンターテインメント性と鋭い社会性で、またダイナミックな映像表現とヒューマニズムに徹した作風で、数多くの名作を生み出し、世界の映画史に峻厳と響え立つ巨人・黒澤明。その十七回忌にあたり、世界の映画人に多大な



→新米刑事とベテラン刑事が犯人を追いつめる『野良犬』①と、人間の本质を鋭く描いて黒澤の名を世界に知らしめた『羅生門』②

影響を与えた『七人の侍』誕生八十周年を記念し、生涯の全三十作品を十月二十五日(土)から上映。上映作品は『姿三四郎』(一九四三年)『一番美しく』(四四年)『続姿三四郎』(四五年)『虎の尾を踏む男たち』(四五年)『わが青春に悔いなし』(四八年)『素晴らしき日曜日』(四七年)『酔いどれ天使』(四八年)『静かなる決闘』(四九年)『野良犬』(四九年)『醜聞』(五〇年)『羅生門』(五〇年)『白痴』(五一年)『生きる』(五一年)『七人の侍』(五四年)

『生きものの記録』(五五年)『蜘蛛巣城』(五七年)『どん底』(五七年)『隠し砦の三悪人』



→役人が余生を世のために注ぐ感動作『生きる』①と、個性溢れる侍たちが貧しい村のために立ち上がる黒澤映画の最高峰『七人の侍』②

(五八年)『悪い奴ほどよく眠る』(六〇年)『用心棒』(六一年)『椿三十郎』(六二年)『天国と地獄』(六三年)『赤ひげ』(六五年)『どですかでん』(七〇年)『デルス・ウザーラ』(七五年、予定)『影武者』(八〇年)、『乱』(八五年、予定)『夢』(九〇年)『八月の狂詩曲』(九一年)『まあだだよ』(九二年)。当日一般千四百円。上映予定など詳細は同館(西区九条一・二〇・一四)地下鉄九条駅⑥出口・阪神なんば線九条駅②出口歩三分、☎六五八一・二四二六へ。

●市岡寄席 市岡住民が運営する地域寄席の

五回目。「みんなで応援・活用 市岡の地域人材」を謳い文句に市岡在住の落語家・桂福丸さん(桂春団治一門)の落語一席を楽しむ。十月二十八日(火)十九時から紫雲山西明寺(市岡一・一四)で。先着八十名。菓子付き。抽選会あり。運営協力金としてのカンパ歓迎。主催は市岡寄席実行委員会(市岡地域活動協議会広報部会、市岡連合振興町会、紫雲山西明寺、繁栄商店街振興組合など)市岡に関係のある諸団体や個人から成る。桂福丸さんは灘中・灘高・京大卒。英語落語でアメリカ公演も。天満天神繁昌亭や

←前回の市岡寄席（六月）①と、「満天星展」が開かれるガレリア・リバーリア（三先）②



TV番組出演中。☎六五七一・五八二六西明寺

●満天星展 平和の願いをキャンバスに込めて

絵画人生を送ってきた川島恵美子さん（八三）八幡屋在住から西区千住堀で、次いで港区で、リアリズム絵画を学んできたグループ（六人）の作品展。油彩・水彩・パステル・スケッチなどによる風景画など三十数点。十月十八日（土）～十月二十五日（土）の十一～十八時に画廊&アトリエ「ガレリア・リバーリア」③（三先）一三二八、みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐで。入場無料。☎七五〇二・四一八八。

●ギャラリーはたなか「木村昭平・後藤美穂作品展」 十月二十三日（木）～十一月一日（日）

←ギャラリーはたなか「木村昭平 後藤美穂 作品展」から木村さん①と後藤さん②の各作品



の十一～十九時（十九日）は休み、最終日は十七時まで。磯路一・一・五（港区役所向かい）。☎六五七一・五九八七。

●ぎやらりー&かふえ風庵「かんたろうの器展」

大正区で喫茶を営みながら陶芸を続けるかんたろうさんの近作が十月一日から「ぎやら



→繁栄商店街「風庵」に展示中のかんたろうさんの作品からビールジョッキ①と猫フローチ②

りー&かふえ 風庵」で展示中。椀・皿・湯呑み・珈琲カップ・ビールジョッキ・箸・箸置き・フローチなど。温かさとユーモアを感じさせる

独特の形・色・手触りが好評。十月二十八日（火）まで。風庵は南市岡三・一・一〇（繁栄商店街内）、☎四九六五・五九八二（十時～十八時開館（日曜定休）。作家連絡先はチャイナ工房（大正区北村一・一四・九、六五五二・一九四）。

●ガットネロ 市岡在住の社会派シャンソン歌手

松浦由美子さん主宰の音楽喫茶。「シャンソン百物語」「HAMORRI・BE（はもりべ）」のつた★カフェ「ニコラシックカフェ」など毎月多彩な企画▽天王寺区上本町六・一・三七、地下鉄谷町九丁目駅①出口、☎六七六七・〇〇二一。



→ガットネロを主宰する松浦由美子さん①と「つた☆カフェ」出演のHAMORRI・BE②

ひとくちPR

(二行＝税込二〇〇〇円)

●放課後・春・夏・冬休みは学童保育へ 入所見募集。

指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇三三

四(西原)か〇八五七二・一六八四三あおぞら学童。

●新しい学びの世界へ！ チーム学習によって

全員ができるをめざす画期的な学習スタイル。小1〜高2。月謝は週一回で実質八千円。

NPOが運営。問合せはメールで「学び合いう

クル 繁栄商店街」(info.ubiquitous.adv@gmail.com)へ。

●そのびな学習とともが変わるー右脳活性化

見直される効用。そのびな教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」学び力も強めよう。森友総合教室 校案(夕風一

三七二津神社西側 〇八五七一・六八七七。

●生涯学習をサポートします 音楽・絵画・健

康体操ダンス・川柳・書道・フラワーアレンジメント・語学・茶道・手芸などの学びを応援。研修・

会議・イベント利用もOK。井天町ORCC200

生涯学習センター(井天一・二・三・七〇〇、地

下鉄・JR井天町直結、〇八五七七・一四二〇)。

●介護のことはお任せ ①介護や老いの相談

に乘ります②介護の手続きを代行します③デイ

サービスは送迎付きで入浴・昼食・手芸・ゲーム・

テレビ鑑賞・カラオケ・囲碁・将棋・麻雀・体操お

やつなどを楽します④訪問介護は買物・掃除・

洗濯・通院などを手伝います。NPOみなと合同

ケアセンター(南市国三・六・二六、〇八五八三

・四八八〇、FAX六五八三・二二二D。

●あなたのふとんが生まれ変わる 綿も羽毛

も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替へ。

シングル掛敷ふとん一万円。理想のまぐら

びより、シングルふとん選びもお任せ。お手

入れアドバイス・無料診断実施中。ふとん館ひ

らのや(南市国三・二・一・八 繁栄商店街東入口

フリーダイヤル〇二二〇・四二四九・五五。

●おしゃれ着いっぱい 神戸メーカー直送、お

出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブ

ティック・ミント(八幡屋一・四・八、入舟公

園前、大阪信金横十・十八時営業、日不定休)。

●レンタルフローボックス 二カ月二〇〇

一八〇〇円。鍵付きガラスケース、棚上陳列ス

ペースハンガー、足元置きカなどの月極し

ンタルも。コスメハウスナナイロ(南市国三・

二・九 繁栄商店街内 〇八五八六・二九・五)。

●ボクササイズでシェイプアップ 女性も小

中高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。

月会費八千円(無期限十枚つづりチケット八千

円)。入会金一万円を引く半額。練習日は月・水・

金の十九時半〜二十一時半。港ホクシングジム

(三先一・三三・九 http://ameber.jp/minatogym)

●読者プレゼント

※いずれもハガキに当日の感想とプレゼント

名を書いて二十日必着で港新聞へ。

●関西フィル「いずみホールシリーズ35」(み

なとカルチャー)招待券をへア一組に。

●オノク井天寄席(みなとカルチャー)招待券

をへア一組に。

●井天シネマ倶楽部『ラブの総て』(みなとカ

ルチャー)招待券をへア一組に。

●フレイジー・コメディー『授業』(演劇カ

イ)招待券をへア一組に。

40